

結果の概要

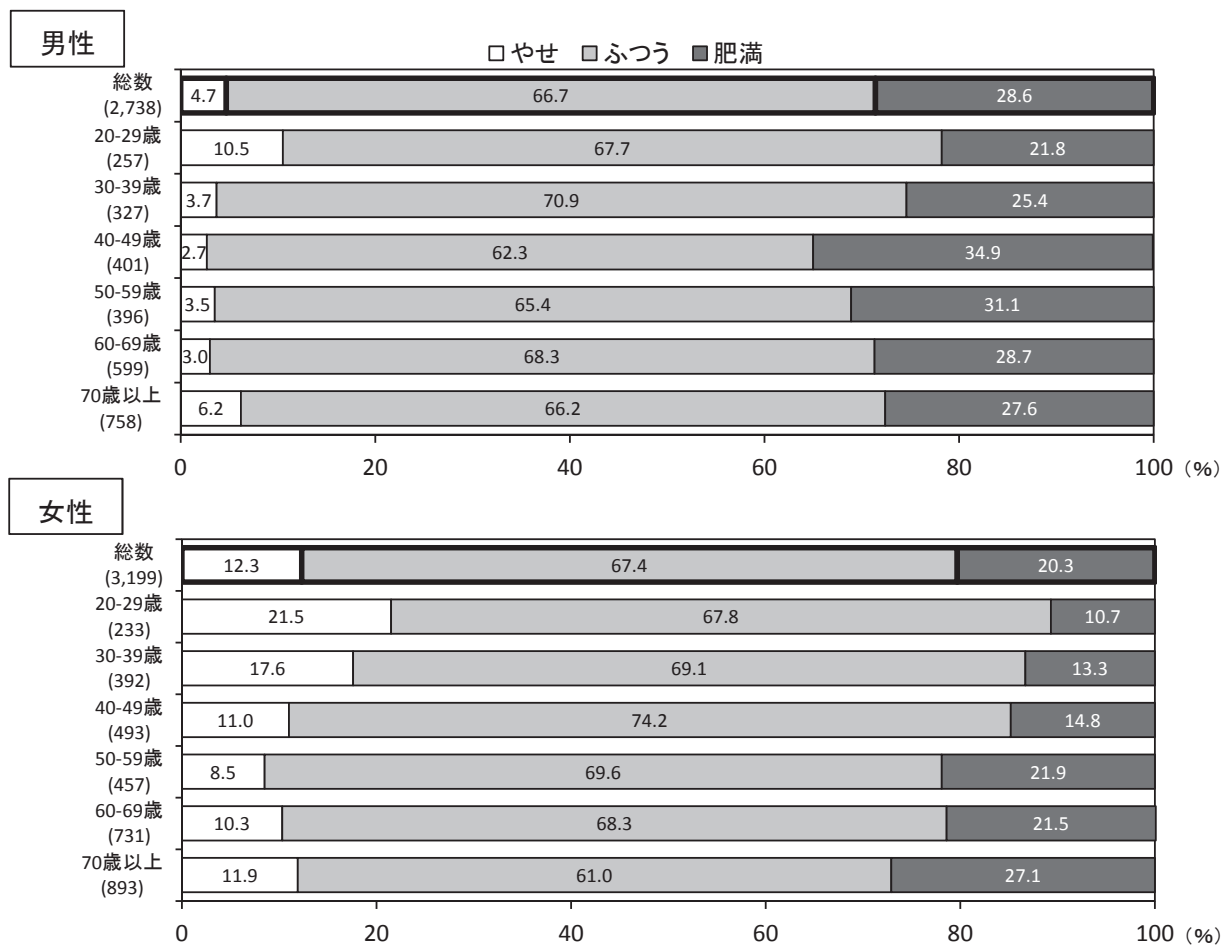
- ・本調査結果は、統計学的な処理（有意水準は5%とした）に基づき、コメントを記述している。
- ・解析対象者数については（ ）内で併記した。

第1部 食事に関する状況

1. エネルギー収支バランスの指標としての体格の状況

BMIが「ふつう」の範囲にあてはまる者の割合は、男女とも6割を超えている。「肥満」の範囲にあてはまる者の割合は、女性に比べて男性が高く、男性において年齢階級別にみると、40歳代が最も高い。「やせ」の範囲にあてはまる者の割合は、男性に比べて女性が高く、性・年齢階級別にみると男女ともに20歳代で最も高い。

図1 体格の状況(BMIの範囲別人数の割合)(20歳以上、性・年齢階級別)



※BMI (Body Mass Index) $[kg/m^2] = \text{体重}[kg] / (\text{身長}[m])^2$
 「やせ」は BMI18.5 kg/m^2 未満、「ふつう」は BMI18.5 kg/m^2 以上 25 kg/m^2 未満、「肥満」は BMI25 kg/m^2 以上。

＜参考＞エネルギー収支バランスの基本概念

体重の変化、体格

エネルギー摂取量とエネルギー消費量が等しいとき、体重の変化はなく、健康的な体格(BMI)が保たれる。エネルギー摂取量がエネルギー消費量を上回ると体重は増加し、肥満につながる。エネルギー消費量がエネルギー摂取量を上回ると体重は減少し、やせにつながる。

エネルギー収支バランスは、エネルギー摂取量－エネルギー消費量として定義され、「日本人の食事摂取基準(2015年版)」では、体格をエネルギーの指標として採用した。

2. エネルギー及び栄養素等摂取量、食品群別摂取量の状況

エネルギー摂取量の平均値は10年間で減少傾向にある。エネルギー摂取量に占める脂質の割合は、年齢が高くなるほど低くなっている。主な食品群別摂取量は、10年間でほとんど変化はないが魚介類と肉類の摂取量は、平成21年に逆転してからその状態は続いている。10年前と比べて、どの年代においても魚介類の摂取量は減少傾向、肉類は増加傾向にある。

図2 たんぱく質・脂質・炭水化物・エネルギーの摂取量の年次推移(20歳以上)(平成15~25年)

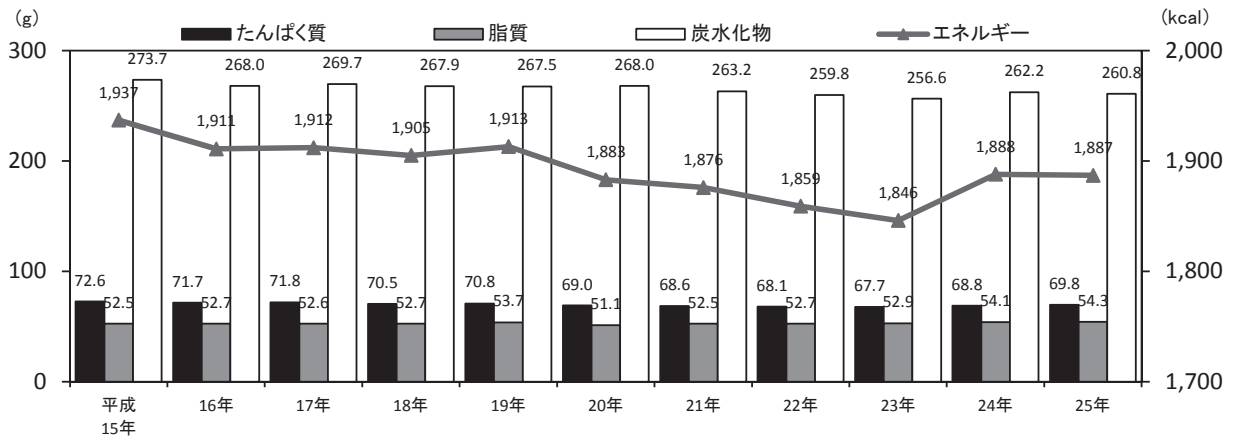


図3 エネルギーの栄養素別構成比の平均値(20歳以上、男女計、年齢階級別)

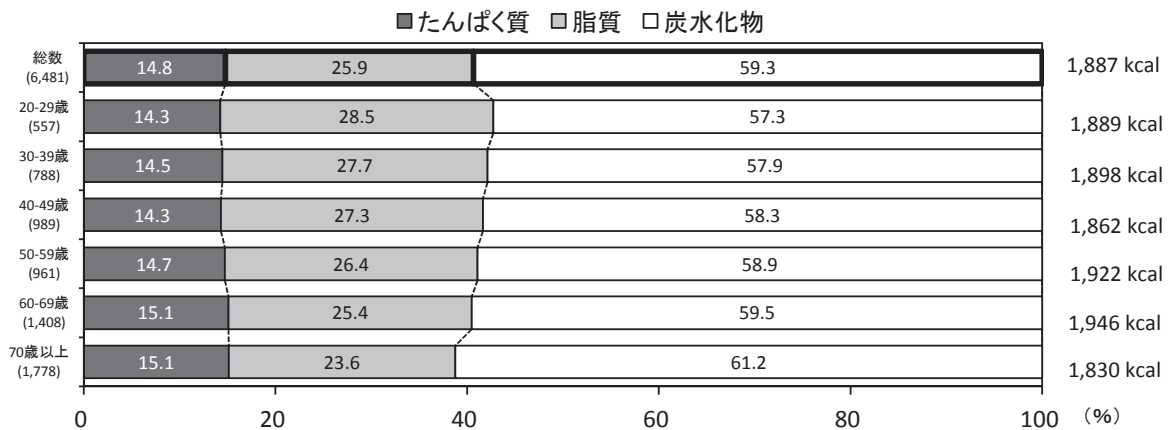


図4 主な食品群別摂取量の平均値の年次推移(20歳以上)(平成15~25年)

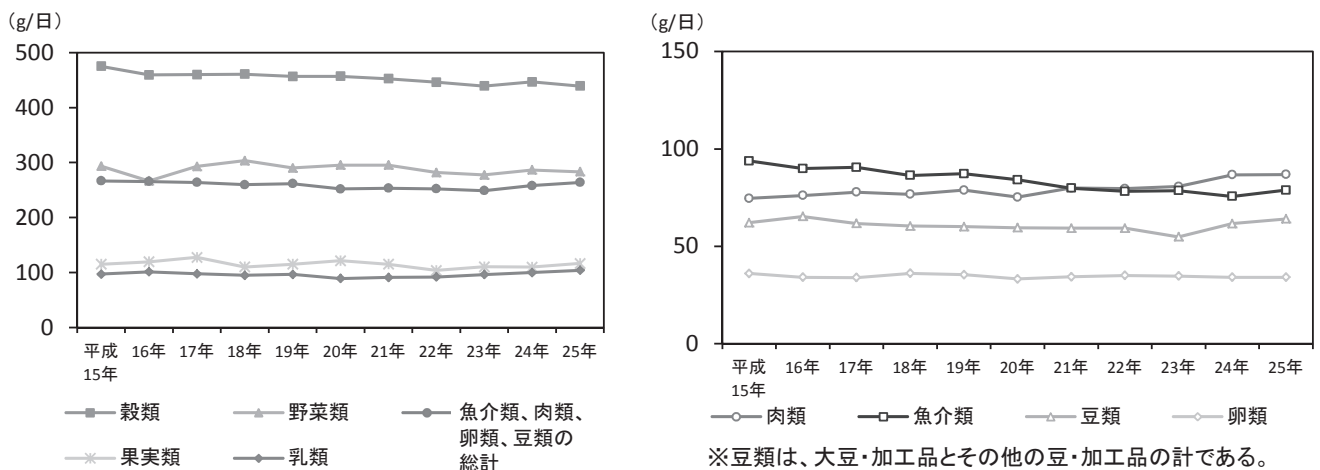
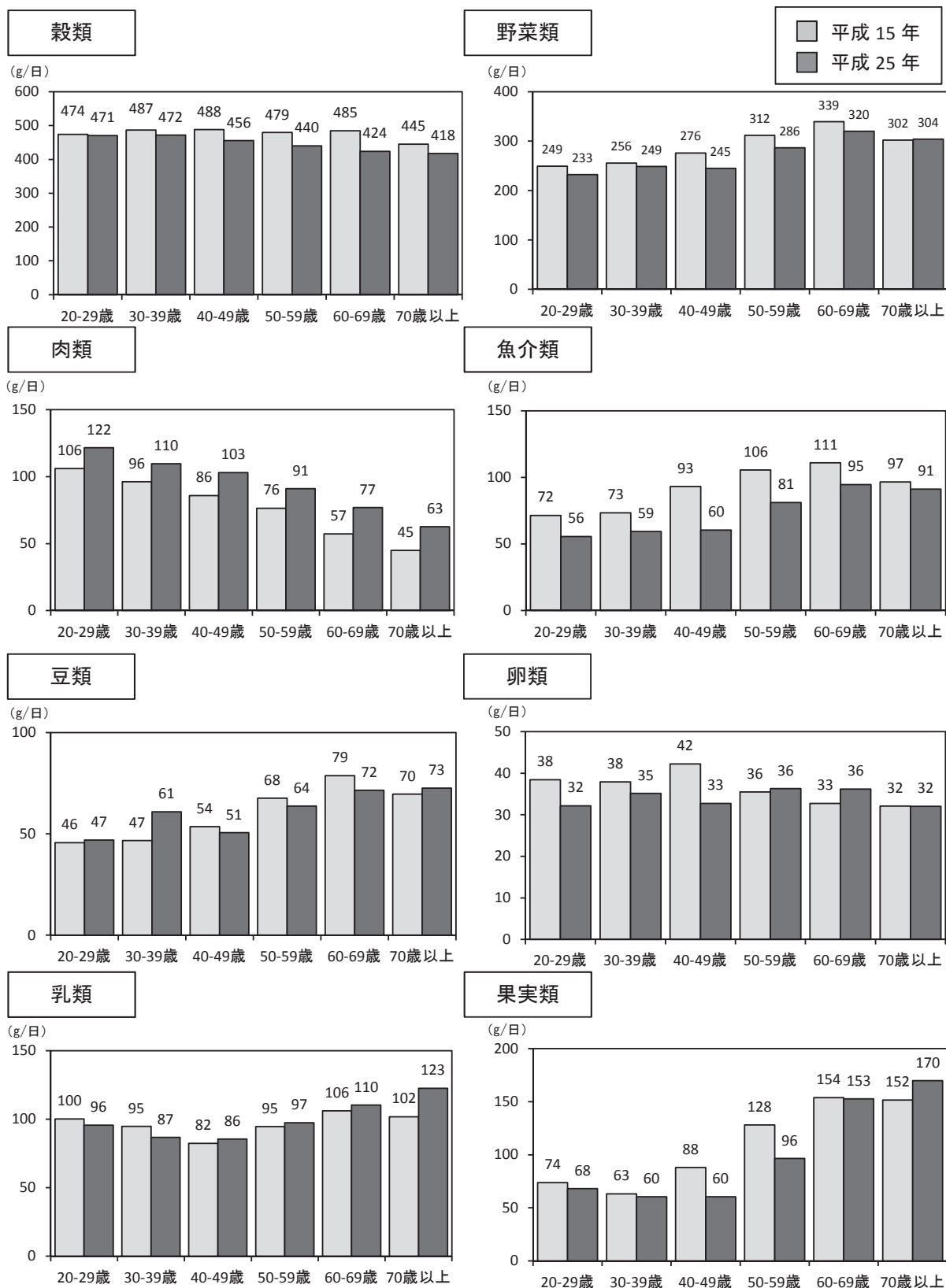


図5 主な食品群別摂取量の平均値の年次変化(20歳以上、男女計・年齢階級別)

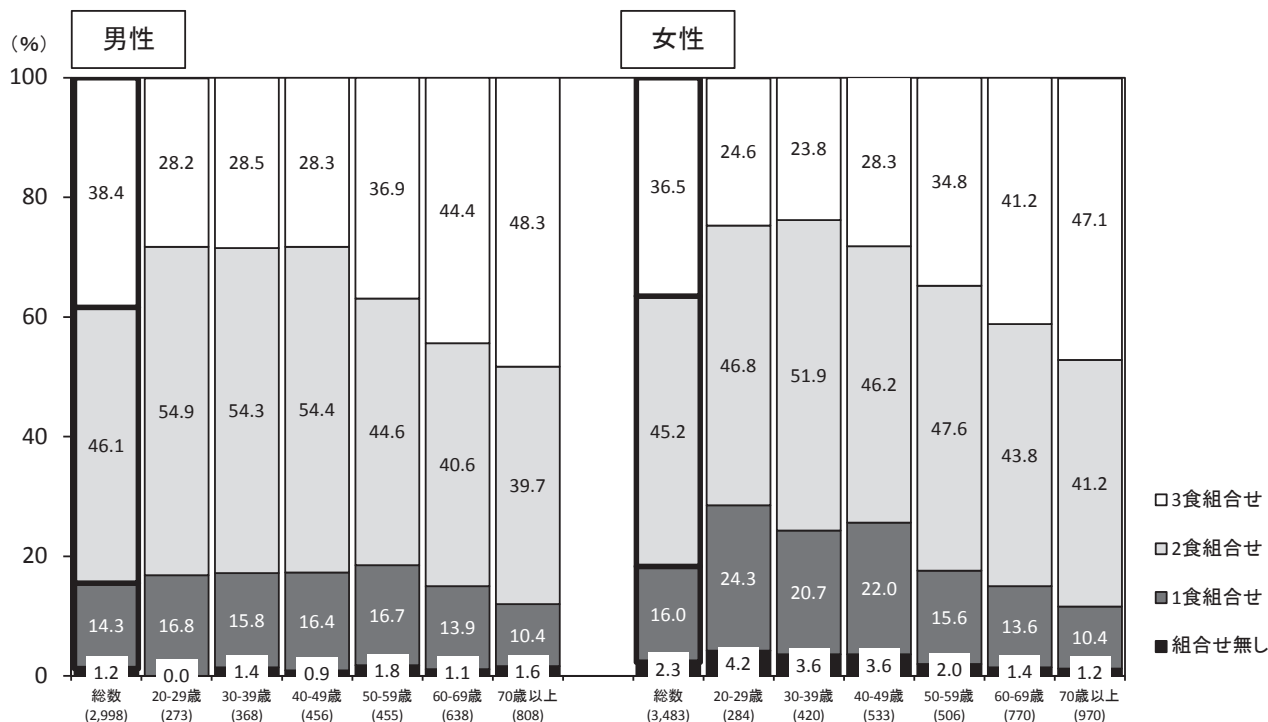


(参考)「健康日本21(第2次)」の目標
 野菜摂取量の増加
 目標値: 1日あたりの野菜摂取量の平均値 350g

3. 食品群の組合せの状況

3食ともに、穀類・魚介類・肉類・卵・大豆(大豆製品)、野菜を組み合わせせて食べている者は男性で38.4%、女性で36.5%である。年齢階級別にみると、その割合は男女ともに若いほど低い傾向にある。

図6 穀類と魚介類・肉類・卵・大豆(大豆製品)と野菜を組み合わせせて食べる者の割合
(20歳以上、性・年齢階級別)



※「穀類と魚介類・肉類・卵・大豆(大豆製品)と野菜を組み合わせせて食べる」とは、いずれの食品群も摂取することとした。摂取量については考慮していない。
※欠食者を含む。

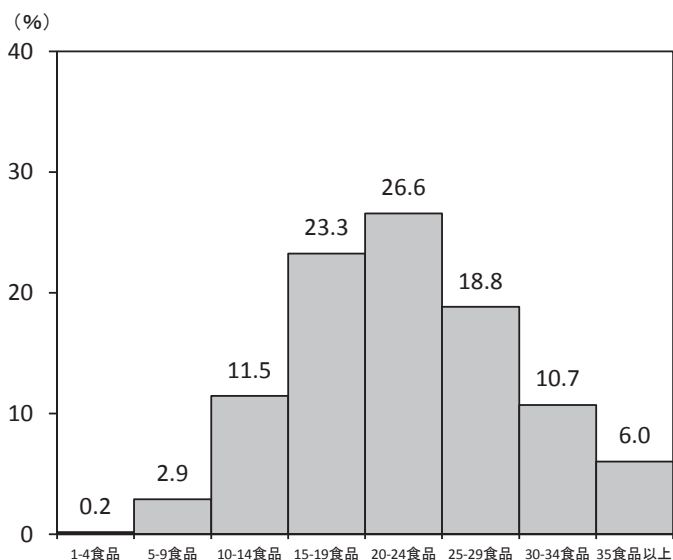
<参考>

平成26年10月に「日本人の長寿を支える『健康な食事』のあり方に関する検討会の報告書」がとりまとめられ、日本の食文化をふまえた「健康な食事」の食事パターンに関する基準が策定された。この基準は、「日本人の食事摂取基準(2015年版)」をもとに、生活習慣病の予防に資する栄養バランスの確保の観点から作成されたものであり、主食(精製度の低い穀類を利用した主食)・主菜(魚介類、肉類、卵類、大豆・大豆製品を主材料とした副食)・副菜(緑黄色野菜を含む2種類以上の野菜を使用した副食)を組み合わせせて食べることを基本としている。

4. 1日の食品数の摂取の状況

1日の食品数の平均値は22.3食品であり、20～24食品を摂取する者の割合が26.6%と最も高い。食事別、年齢階級別にみると、20歳代から40歳代では50歳以上に比べて朝食の食品数が少ない傾向にある。

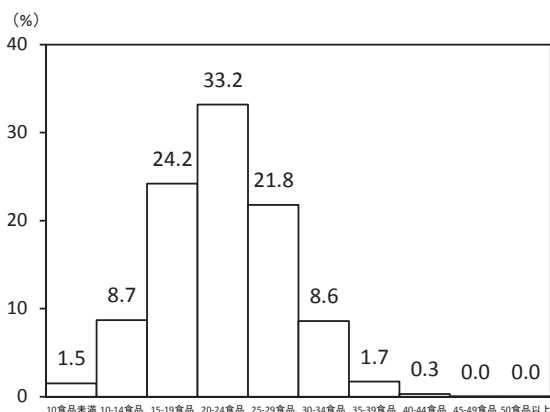
図7 1日の食品数の分布(20歳以上)



※90食品以上の者は除く。
※欠食者を含む。

<参考>

昭和61年国民栄養調査における1日の食品数
(世帯主および配偶者。3日間のうち、第2日目の食物摂取状況調査により把握した結果。)



1日平均約22食品であり、各食事別にみると朝食7.9、
昼食9.2、夕食12.4、間食1.8食品であった。
(昭和61年国民栄養調査報告書)

表1 食事別及び1日の食品数の平均値(20歳以上、男女計、年齢階級別)

	総数 (6,480)	20-29歳 (557)	30-39歳 (787)	40-49歳 (989)	50-59歳 (961)	60-69歳 (1,408)	70歳以上 (1,778)
朝食	6.1	4.1	4.5	4.8	5.8	6.9	7.8
昼食	8.0	8.2	7.8	8.0	8.4	8.2	7.6
夕食	10.6	10.3	10.6	10.3	10.8	11.1	10.4
間食	1.3	1.1	1.0	0.9	1.2	1.6	1.6
1日	22.3	20.6	20.8	20.8	22.7	23.7	22.9

<参考>平成25年調査における食品数の数え方について

朝食、昼食、夕食、間食、1日のそれぞれについて、同じ食品は何回食べても1食品として数え、次の食品群を除外して、摂取した食品数を数えた。

〔食品数の算出から除外した食品群〕

「砂糖及び甘味料」「嗜好飲料類」「調味料及び香辛料類」「栄養素調整調味料類及びその他の加工食品等」

5. 食塩摂取量の状況

成人の1日の食塩摂取量の平均値は、男性 11.1g、女性 9.4g であり、男女ともに、10 年間で減少傾向にある。

図8 食塩摂取量の平均値の年次推移(20歳以上)(平成15~25年)

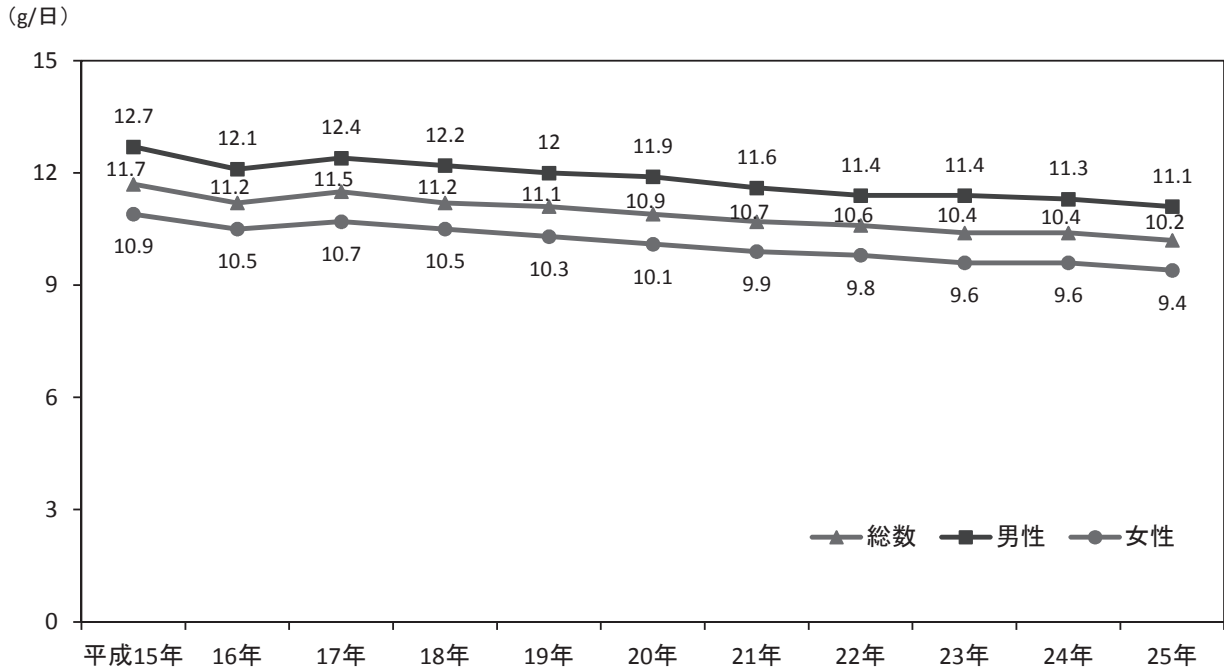
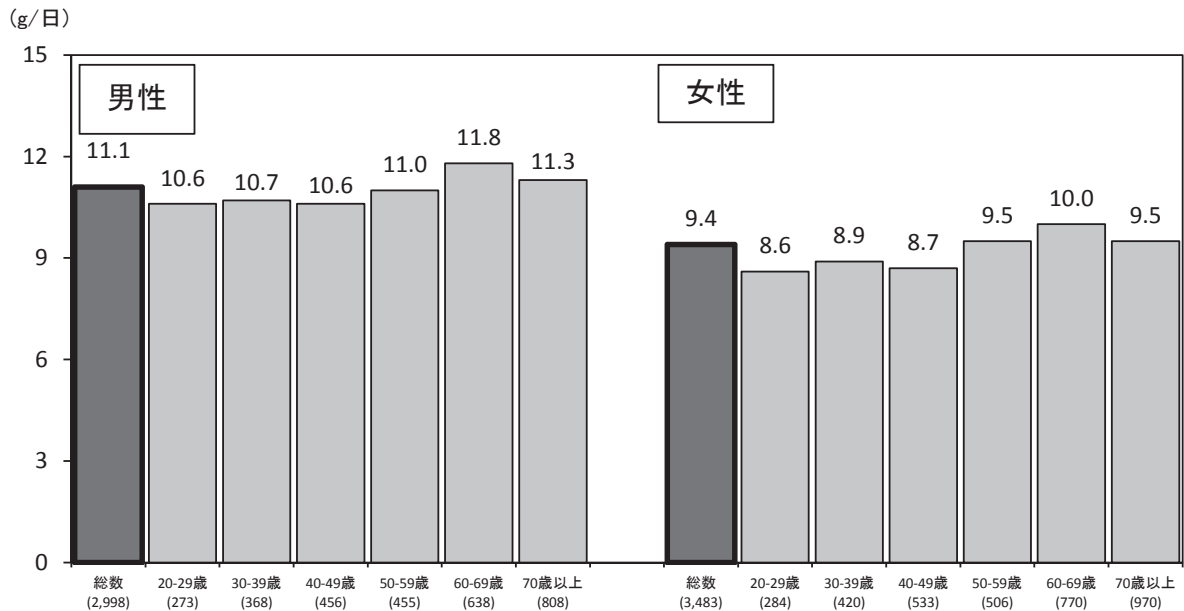


図9 食塩摂取量の平均値(20歳以上、性・年齢階級別)



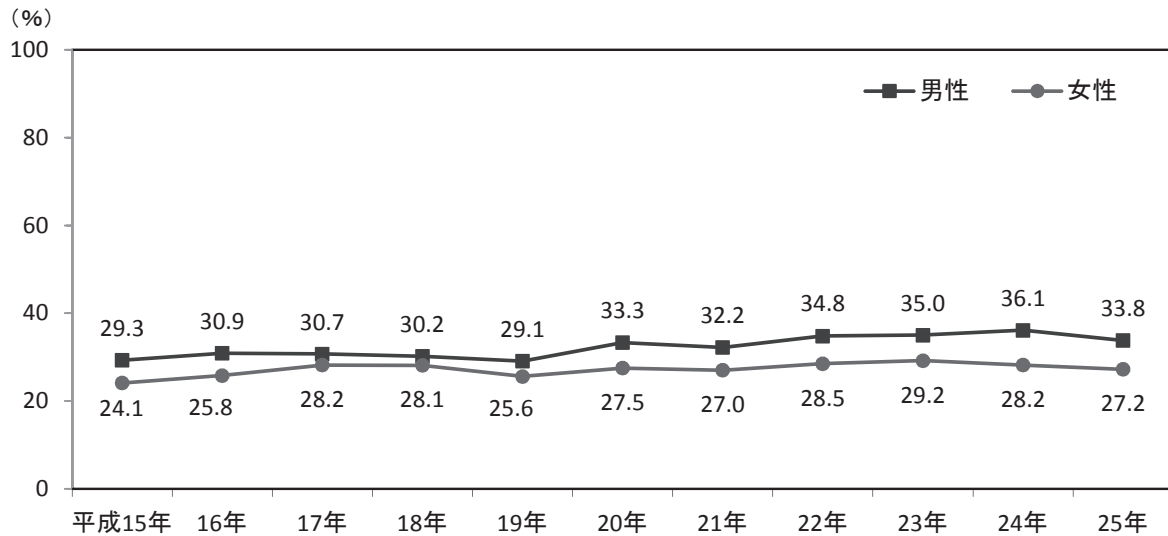
(参考)「健康日本21(第2次)」の目標
 食塩摂取量の減少
 目標値: 1日あたりの食塩摂取量の平均値 8g

第2部 身体活動・運動及び睡眠に関する状況

1. 運動習慣者の状況

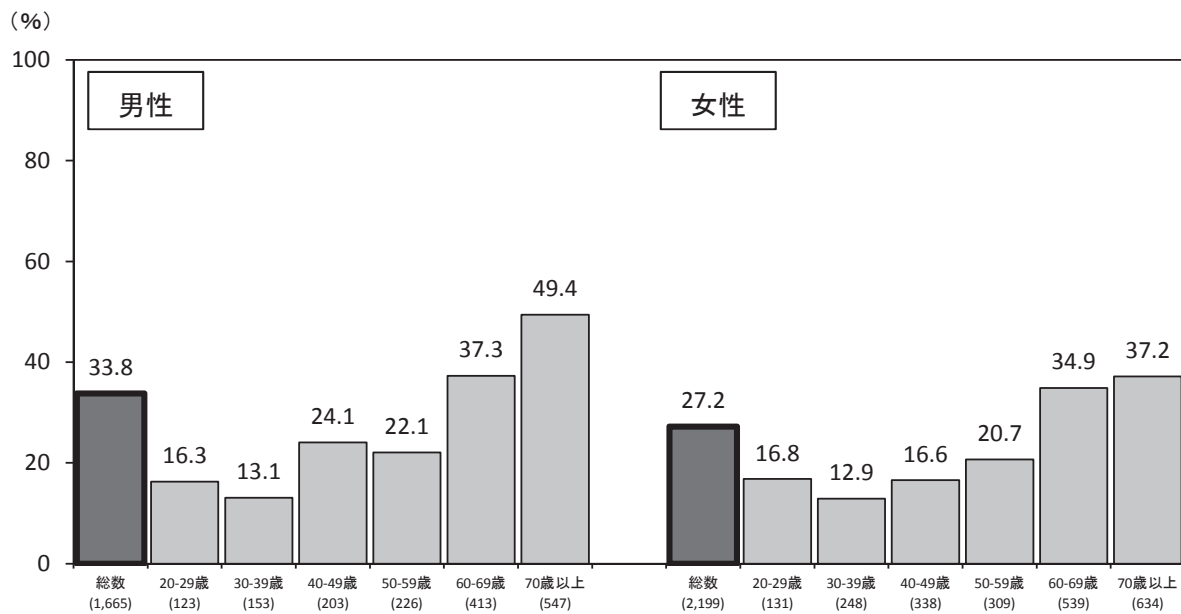
運動習慣のある者の割合は、男性 33.8%、女性 27.2%であり、年齢階級別にみると、その割合は男女ともに30歳代で最も低い。

図10-1 運動習慣のある者の割合の年次推移(20歳以上)(平成15~25年)



※「運動習慣のある者」とは、1回30分以上の運動を週2回以上実施し、1年以上継続している者。

図10-2 運動習慣のある者の割合(20歳以上、性・年齢階級別)

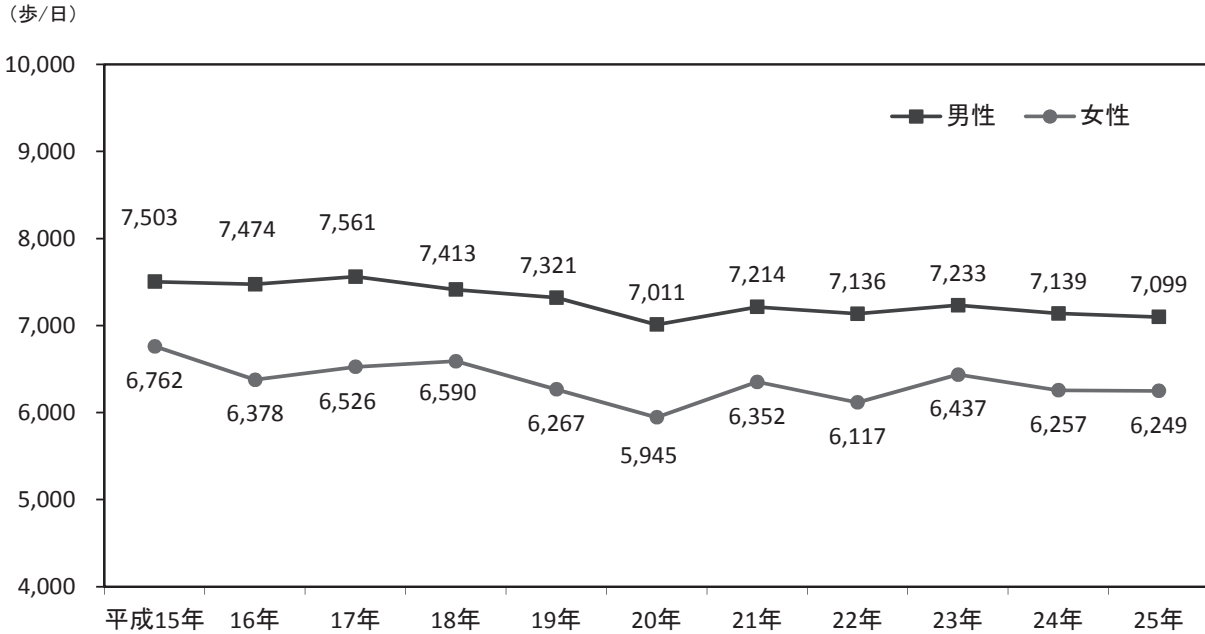


(参考)「健康日本21(第2次)」の目標
 運動習慣者の割合の増加
 目標値: 20~64歳 男性 36% 女性 33%
 65歳以上 男性 58% 女性 48%

2. 歩数の状況

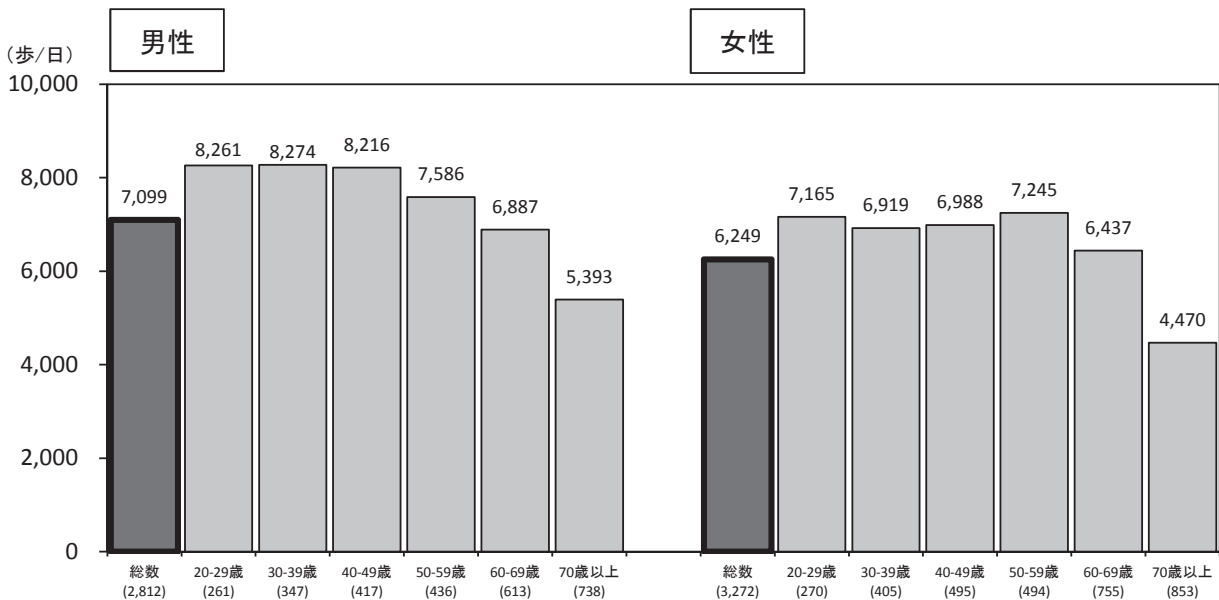
男性の歩数の平均値は、7,099 歩であり、10 年間で減少傾向にある。女性の歩数の平均値は 6,249 歩であり、10 年間で変化が見られなかった。

図 11-1 歩数の平均値の年次推移(20 歳以上)(平成 15~25 年)



※平成 24 年以降は 100 歩未満または5万歩以上の者は除く。

図 11-2 歩数の平均値(20 歳以上、性・年齢階級別)



※100 歩未満または5万歩以上の者は除く。

(参考)「健康日本21(第2次)」の目標
 日常生活における歩数の増加
 目標値: 20~64 歳 男性 9,000 歩 女性 8,500 歩
 65 歳以上 男性 7,000 歩 女性 6,000 歩

3. 生活活動の実践度の状況

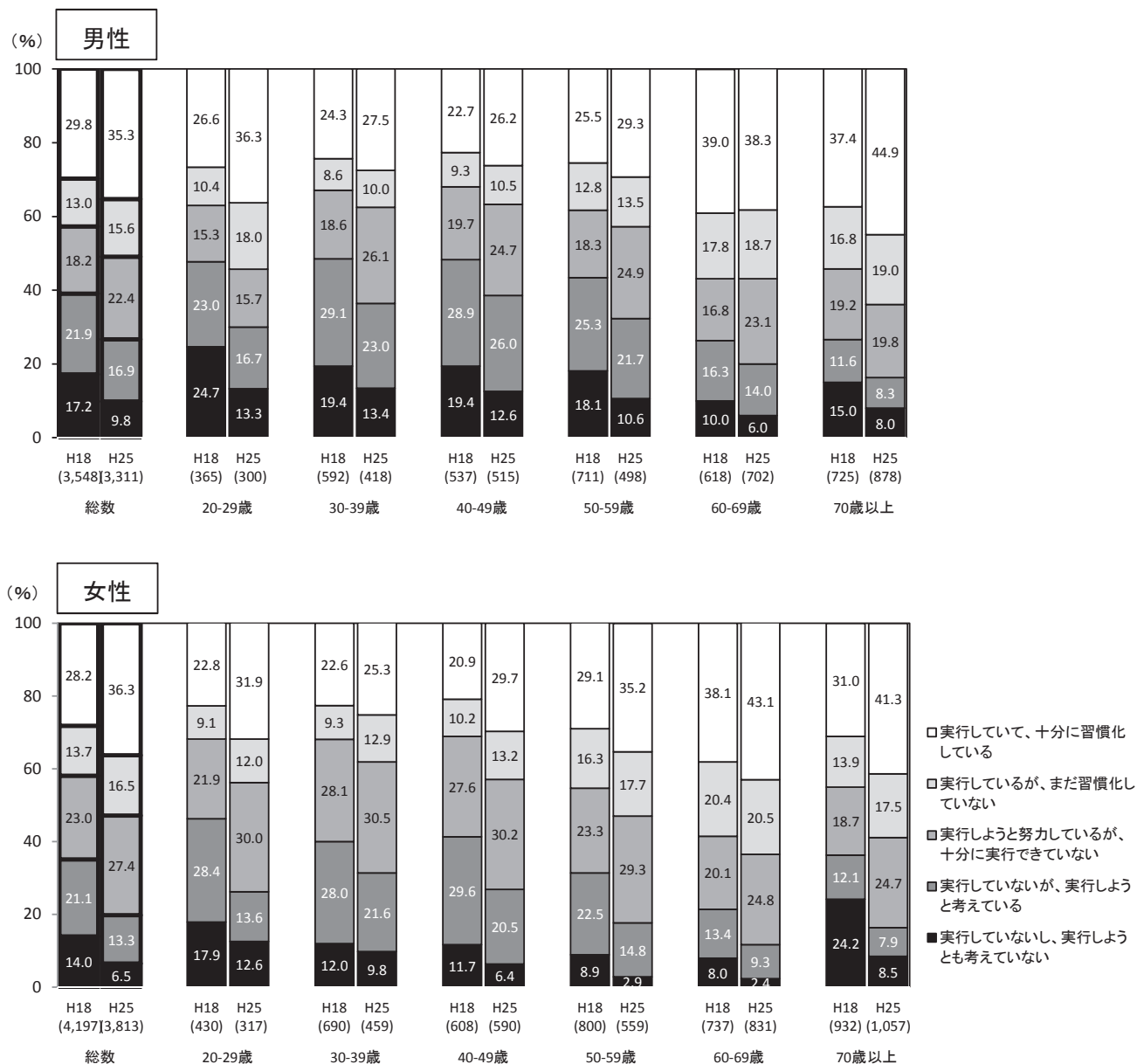
日常生活で体を動かすことを、「実行していて、十分に習慣化している」者の割合は、男女ともに3割を超えており、平成18年に比べて増加している。年齢階級別にみると、男性では70歳以上、女性では60歳代が最も高く、それぞれ44.9%、43.1%である。一方、「実行していないし、実行しようとも考えていない」者の割合は、男性では30歳代、女性では20歳代が最も高く、それぞれ13.4%、12.6%である。

図12 生活活動の実践度(20歳以上、性・年齢階級別)

問: 日常生活で体を動かす*こと(生活活動)についてお伺いします。

「健康維持・増進のためには、日常生活で、毎日60分間くらい体を動かすような生活をする」ことが推奨されています。あなたは、これを実行していますか。あてはまる番号を1つ選んで○印をつけて下さい。

*体を動かすとは、歩く、犬の散歩をする、そうじをする、自転車に乗る、速歩きをする、こどもと活発に遊ぶ、農作業をする、階段を速くのぼるなどと同等の動きを指します。



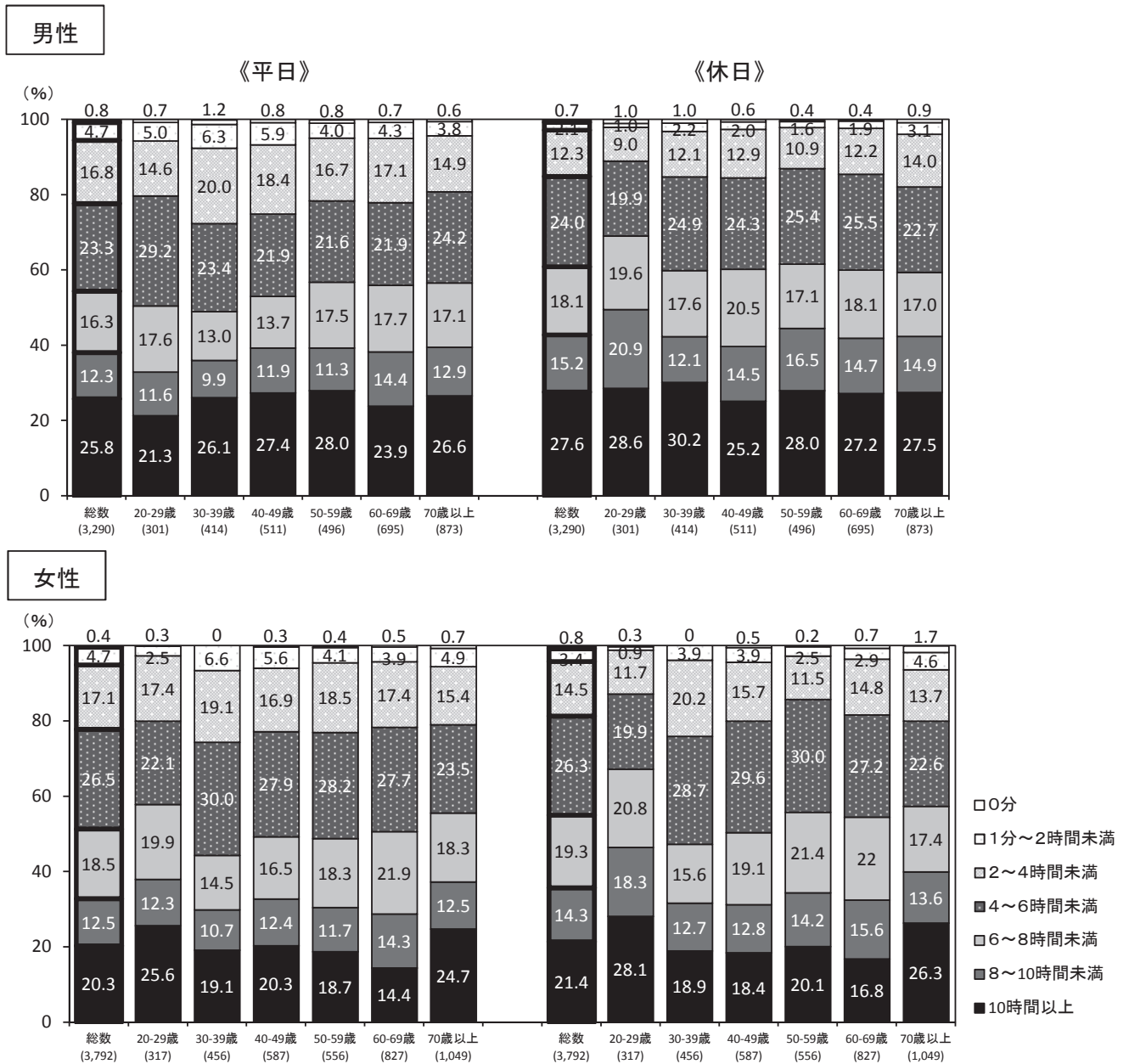
4. 身体不活動の状況

座ったり寝転がったりして過ごす時間(身体不活動の状況)が、1日に10時間以上ある者の割合は、平日で男性25.8%、女性20.3%、休日で男性27.6%、女性21.4%である。年齢階級別にみると、その割合は、男性では平日は50歳代、休日は30歳代が、女性では平日、休日ともに20歳代が最も高い。

図13 座ったり寝転がったりして過ごす時間(20歳以上、性・年齢階級別)

問: あなたは、座ったり寝転がったりして過ごす時間*が、1日平均してどのくらいありますか。

*座ったり寝転がったりして過ごす時間とは、机やコンピューターに向かう時間(仕事、勉強や読書などを含む)、テレビを見ている時間、座って会話をする時間、車を運転する(または車に乗っている)時間、電車で座っている時間等を含みます。ただし、睡眠時間は含みません。



5. 睡眠の質の状況

睡眠の質の状況として、男女とも「日中、眠気を感じた」と回答した者の割合が最も高く、男性37.7%、女性43.0%である。その他の項目では、「睡眠時間が足りなかった」と回答した者の割合が男性では30歳代、女性では20歳代および40歳代で約4割となっている。

図14 睡眠の質の状況(20歳以上、男女別)

問:睡眠の質についておたずねします。あなたはこの1か月間に、次のようなことが週3回以上ありましたか。
 あてはまる番号をすべて選んで○印をつけて下さい。

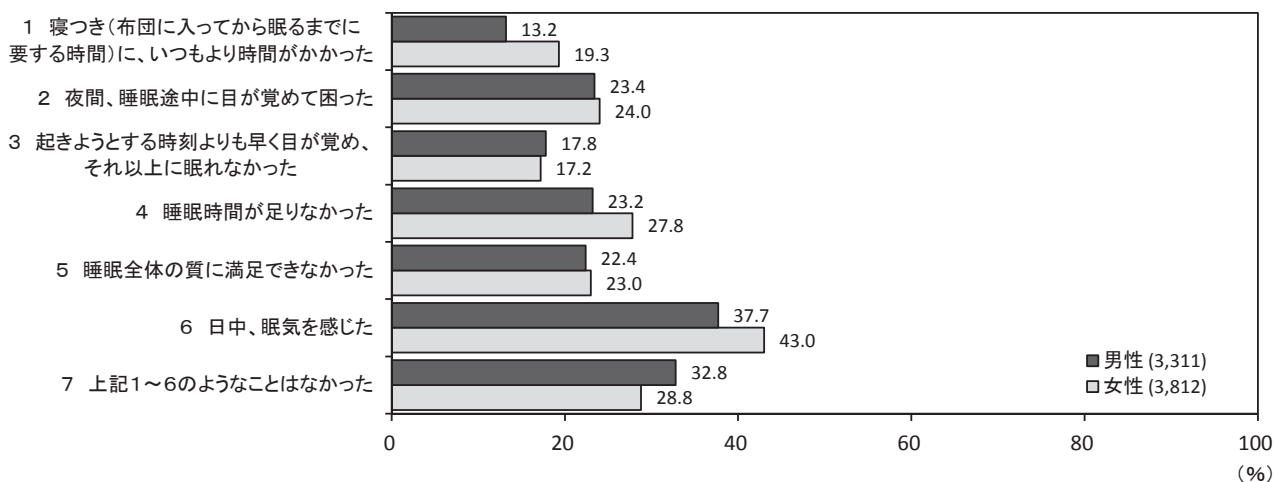


表2 睡眠の質の状況(20歳以上、性・年齢階級別)

	総数		20-29歳		30-39歳		40-49歳		50-59歳		60-69歳		70歳以上		
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
男性	1 寝つき(布団に入ってから眠るまでに要する時間)に、いつもより時間がかかった	438	13.2	53	17.7	60	14.4	64	12.5	54	10.8	84	12.0	123	14.0
	2 夜間、睡眠途中で目が覚めて困った	776	23.4	37	12.3	76	18.2	96	18.7	105	21.1	183	26.1	279	31.7
	3 起きようとする時刻よりも早く目が覚め、それ以上に眠れなかった	591	17.8	17	5.7	51	12.2	95	18.5	105	21.1	141	20.1	182	20.7
	4 睡眠時間が足りなかった	769	23.2	108	36.0	167	40.0	163	31.7	157	31.5	93	13.3	81	9.2
	5 睡眠全体の質に満足できなかった	743	22.4	83	27.7	122	29.2	136	26.5	126	25.3	139	19.9	137	15.6
	6 日中、眠気を感じた	1,247	37.7	148	49.3	176	42.1	198	38.5	194	39.0	237	33.9	294	33.4
	7 上記1~6のようなことはなかった	1,086	32.8	89	29.7	124	29.7	163	31.7	139	27.9	258	36.9	313	35.5
	総数	3,311	-	300	-	418	-	514	-	498	-	700	-	881	-
女性	1 寝つき(布団に入ってから眠るまでに要する時間)に、いつもより時間がかかった	736	19.3	64	20.2	79	17.2	60	10.2	110	19.7	172	20.7	251	23.7
	2 夜間、睡眠途中で目が覚めて困った	916	24.0	56	17.7	71	15.5	106	18.0	103	18.4	213	25.7	367	34.7
	3 起きようとする時刻よりも早く目が覚め、それ以上に眠れなかった	655	17.2	25	7.9	35	7.6	54	9.2	79	14.1	179	21.6	283	26.8
	4 睡眠時間が足りなかった	1,058	27.8	133	42.0	168	36.6	253	42.9	189	33.8	180	21.7	135	12.8
	5 睡眠全体の質に満足できなかった	877	23.0	94	29.7	152	33.1	170	28.8	145	25.9	157	18.9	159	15.0
	6 日中、眠気を感じた	1,639	43.0	180	56.8	226	49.2	304	51.5	240	42.9	320	38.6	369	34.9
	7 上記1~6のようなことはなかった	1,098	28.8	78	24.6	123	26.8	151	25.6	159	28.4	260	31.3	327	30.9
	総数	3,812	-	317	-	459	-	590	-	559	-	830	-	1,057	-

※複数回答のため、内訳合計が100%にならない。

第3部 身体状況及び糖尿病等に関する状況

1. 肥満及びやせの状況

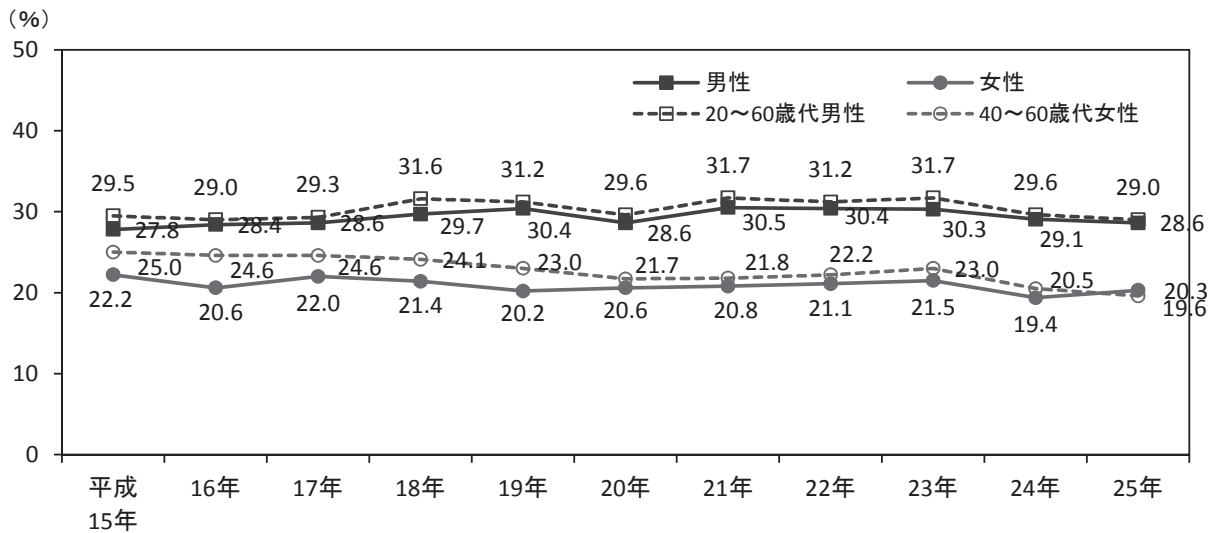
男性の肥満者の割合は28.6%であり、平成15年からみると22年まで増加傾向であり、平成23年からは変化が見られなかった。女性の肥満者の割合は20.3%であり、10年間で減少傾向にある。男性のやせの者の割合は4.7%であり、10年間で変化が見られなかった。女性のやせの者の割合は12.3%であり、10年間で増加傾向にある。低栄養傾向の高齢者の割合は16.8%であり、年齢階級別にみると、85歳以上で最も高い。

※BMI(Body Mass Index[kg/m²], 体重[kg] / (身長[m])²)を用いて判定

▼やせ、肥満について▼「日本肥満学会肥満症診断基準検討委員会 2000年」

「やせ」はBMI18.5 kg/m²未満、「肥満」はBMI25 kg/m²以上。

図15 肥満者の割合の年次推移(20歳以上)(平成15~25年)



※妊婦除外。

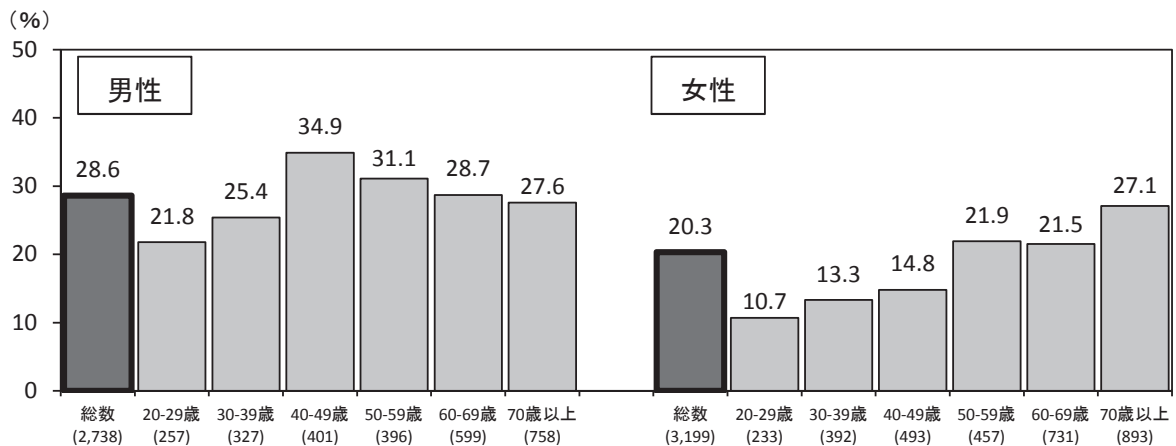
(参考)「健康日本21(第2次)」の目標

適正体重を維持している者の増加(肥満(BMI 25以上)、やせ(BMI 18.5未満)の減少)

目標値: 20~60歳代男性の肥満者の割合 28%

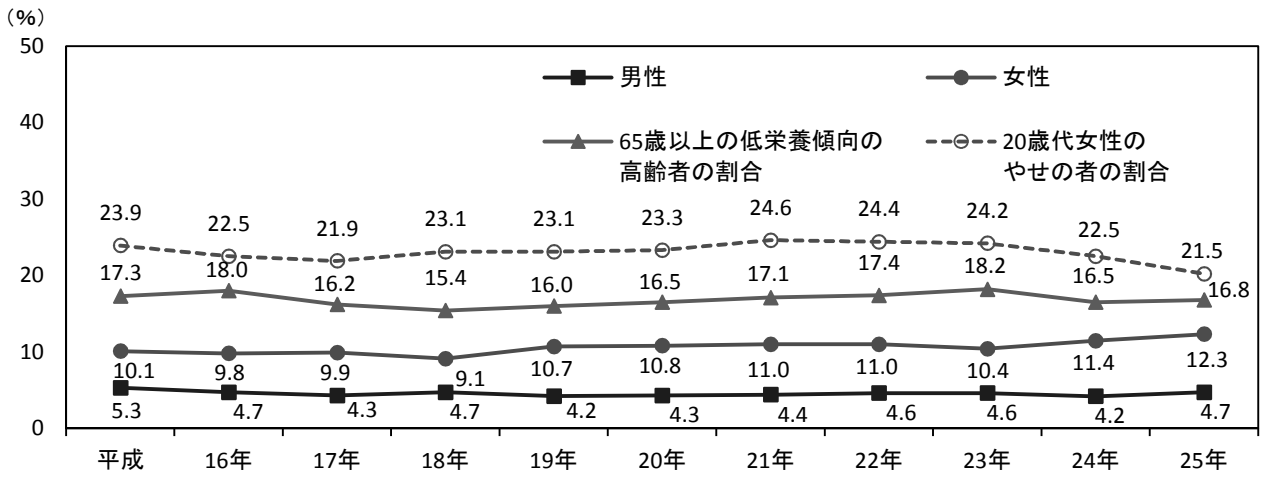
40~60歳代女性の肥満者の割合 19%

図16 肥満者の割合(20歳以上、性・年齢階級別)



※妊婦除外。

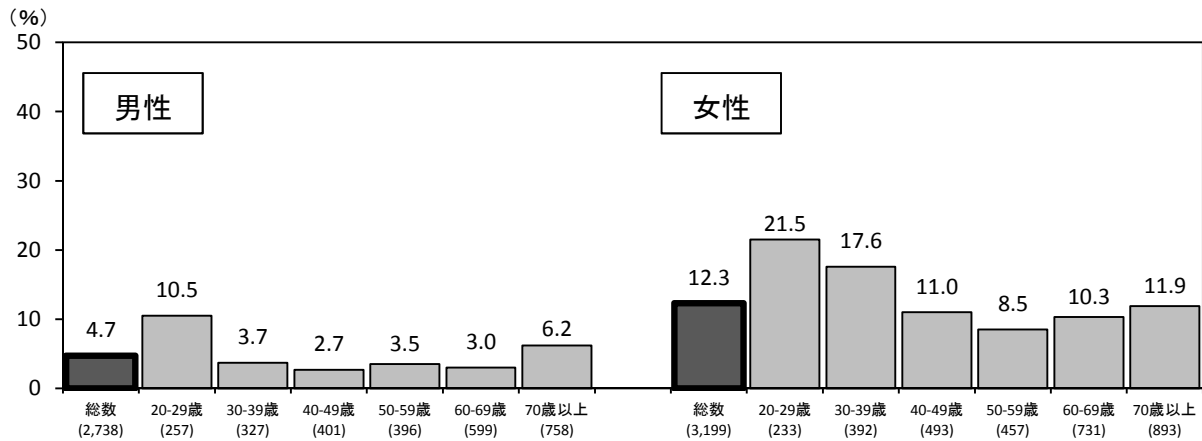
図 17 やせの者及び低栄養傾向の者の割合の年次推移(20歳以上)(平成15~25年)



※ 20歳代女性のやせの者の割合の年次推移は、移動平均により平滑化した結果から作成。
 移動平均：各年の結果のばらつきを少なくするため、各年次結果と前後の年次結果を足し合わせ、計3年分を平均化したもの。ただし、平成25年については単年の結果である。

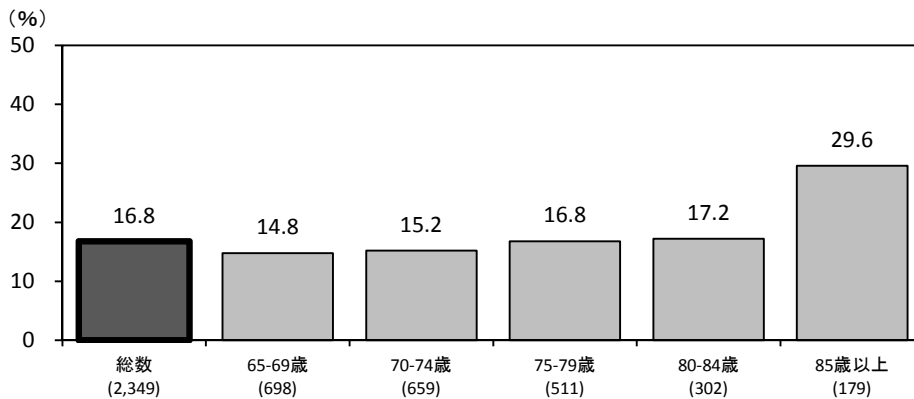
(参考)「健康日本21(第2次)」の目標
 適正体重を維持している者の増加(肥満(BMI 25以上)、やせ(BMI 18.5未満)の減少)
 目標値：20歳代女性のやせの者の割合 20%

図 18 やせの者の割合(20歳以上、性・年齢階級別)



※妊婦除外。

図 19 低栄養傾向の高齢者の割合(65歳以上、男女計、年齢階級別)



(参考)「健康日本21(第2次)」の目標
 低栄養傾向(BMI 20以下)の高齢者の割合の増加の抑制
 目標値：22%

2. 「糖尿病が強く疑われる者」の状況

「糖尿病が強く疑われる者」の割合は、男性 16.2%、女性 9.2%であり、平成 18 年からみても男女ともに変化が見られなかった。

▼「糖尿病が強く疑われる者」の判定▼

「糖尿病が強く疑われる者」とは、ヘモグロビン A1c の測定値があり、「薬の使用の有無」及び「糖尿病治療の有無」に回答した者のうち、ヘモグロビン A1c(NGSP)値が 6.5%以上、又は、「糖尿病治療の有無」に「有」と回答した者。

図 20-1 「糖尿病が強く疑われる者」の割合の年次推移(20 歳以上)
(平成 18~25 年)

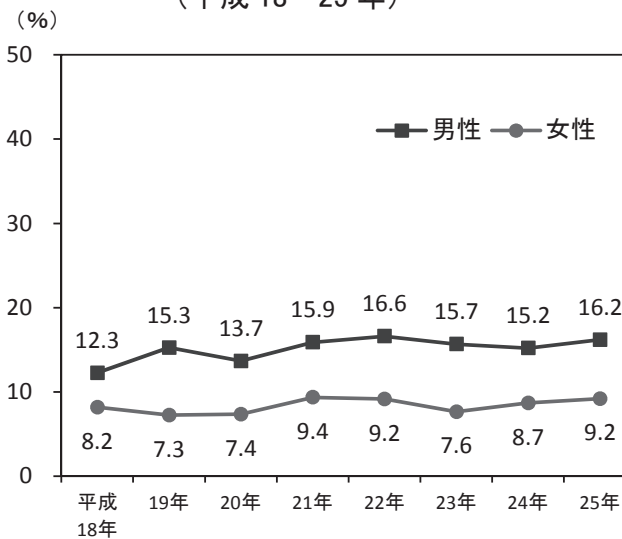


図 20-2 年齢調整した、「糖尿病が強く疑われる者」の割合の年次推移
(20 歳以上)(平成 18~25 年)

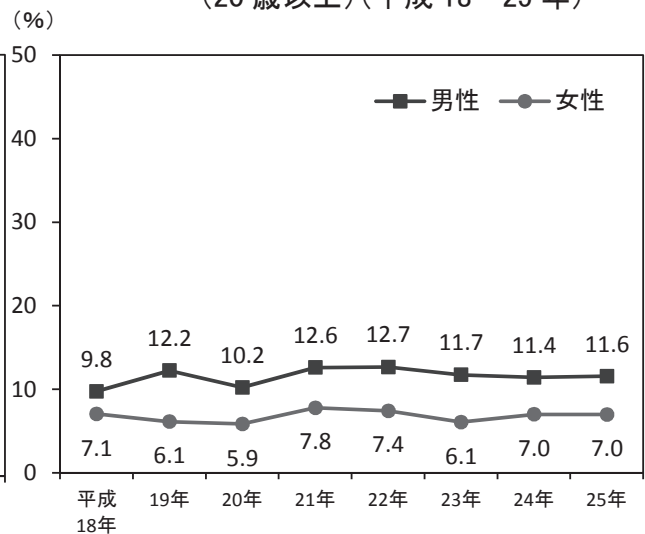
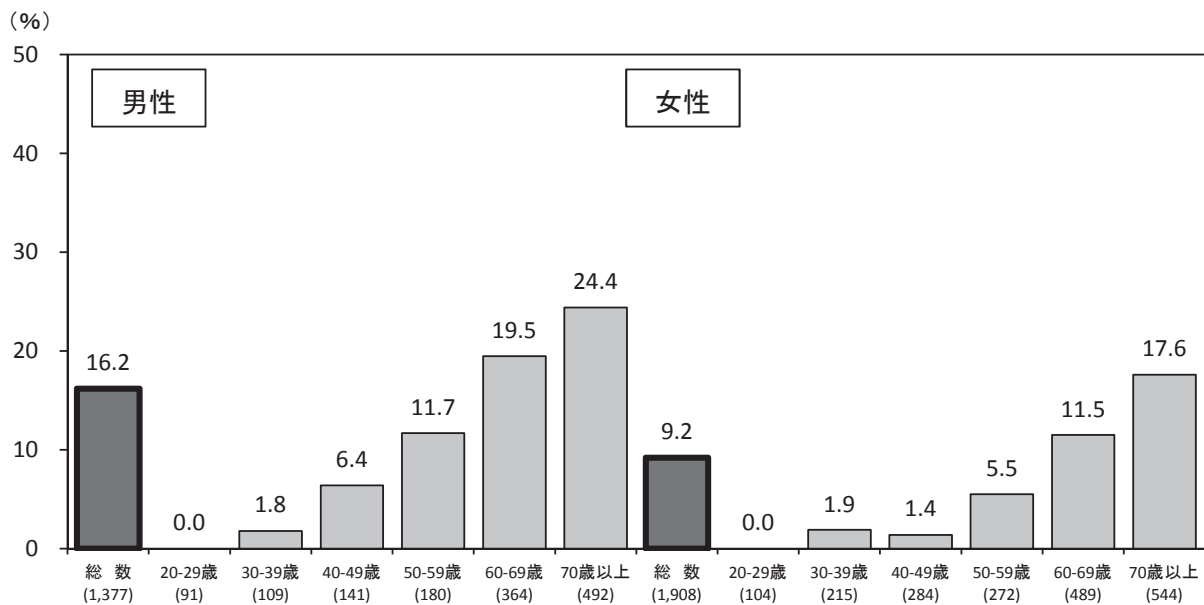


図 21 「糖尿病が強く疑われる者」の割合(20 歳以上、性・年齢階級別)



3. 血圧に関する状況

男性の収縮期(最高)血圧の平均値は 135.3mmHg であり、平成 19 年から減少傾向にある。
 女性の収縮期(最高)血圧の平均値は 129.5mmHg であり、10 年間で減少傾向にある。
 収縮期(最高)血圧が 140mmHg 以上の者の割合は、男性 38.3%、女性 29.6%である。

図 22-1 収縮期(最高)血圧の平均値の年次推移(20歳以上)(平成15~25年)

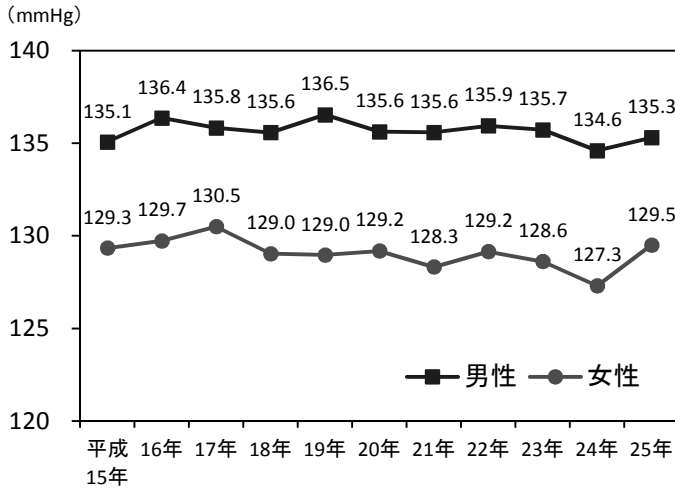


図 22-2 年齢調整した、収縮期(最高)血圧の平均値の年次推移(20歳以上)(平成15~25年)

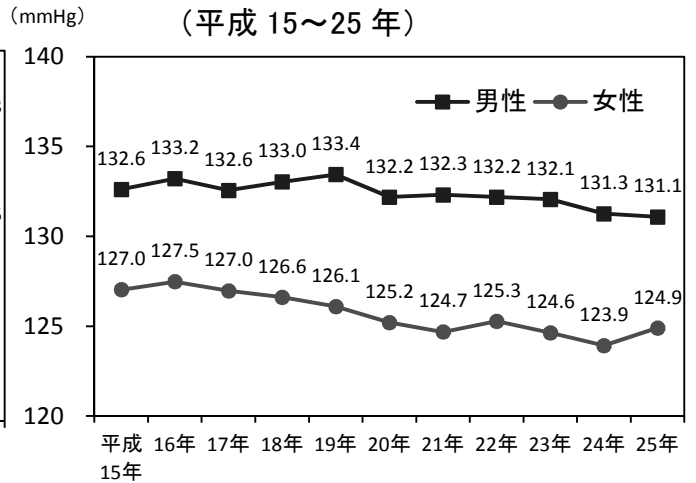


図 23-1 収縮期(最高)血圧が 140mmHg 以上の者の割合の年次推移(20歳以上)(平成15~25年)

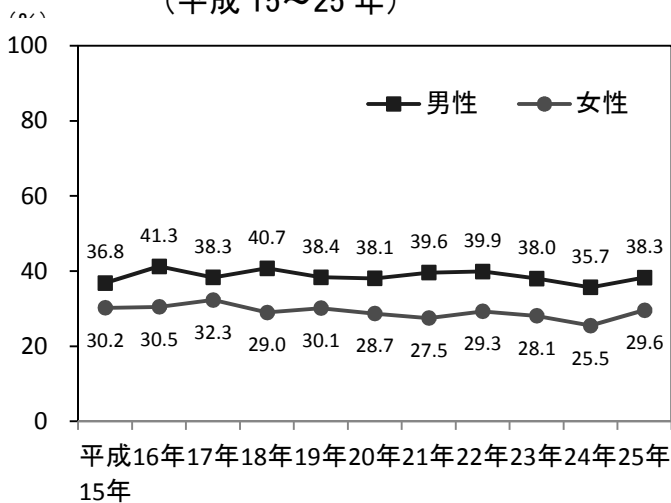
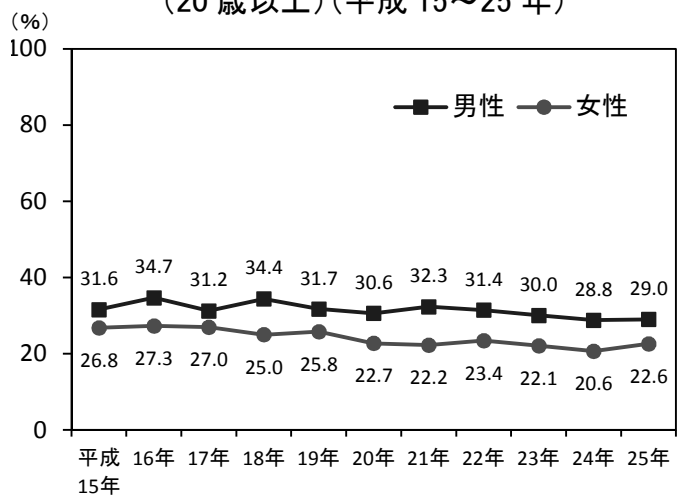


図 23-2 年齢調整した、収縮期(最高)血圧が 140mmHg 以上の者の割合の年次推移(20歳以上)(平成15~25年)



※血圧を下げる薬の使用者含む。

※2回の測定値の平均値。1回しか測定できなかった者については、その値を採用。

(参考)「健康日本21(第2次)」の目標
 高血圧の改善(収縮期血圧の平均値の低下)
 目標値: 男性 138mmHg、女性 133mmHg

<年齢調整値の算出方法>

$$\frac{\text{【(各年齢階級の割合または平均値) × (基準人口の当該年齢階級の人数)】の各年齢階級の客体数総和}}{\text{基準人口の総数}}$$

4. 血中コレステロールに関する状況

血清総コレステロールの平均値は、男性 196.6mg/dL、女性 207.3mg/dL であり、男女ともに 10 年間で変化が見られなかった。
 血清総コレステロールが 240mg/dL 以上の者の割合は、男性 10.3%、女性 16.8%である。

図 24-1 血清総コレステロールの平均値の年次推移(20 歳以上) (平成 15~25 年)

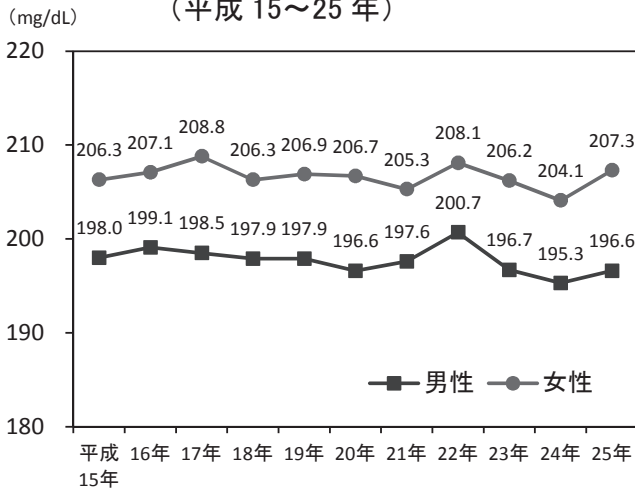


図 24-2 年齢調整した、血清総コレステロールの平均値の年次推移 (20 歳以上) (平成 15~25 年)

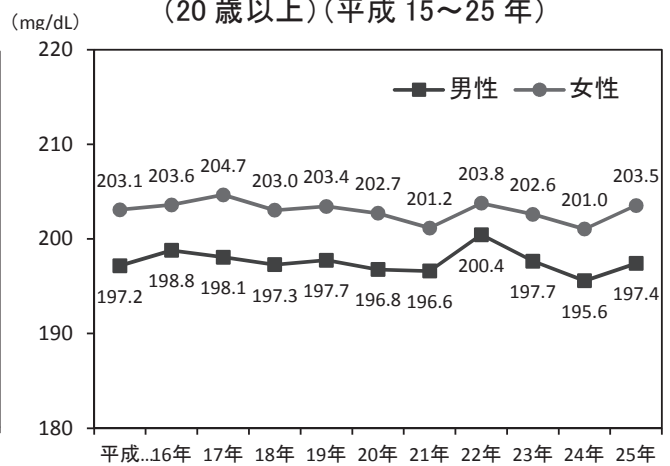


図 25-1 血清総コレステロールが 240mg/dL 以上の者の割合の年次推移 (20 歳以上) (平成 15~25 年)

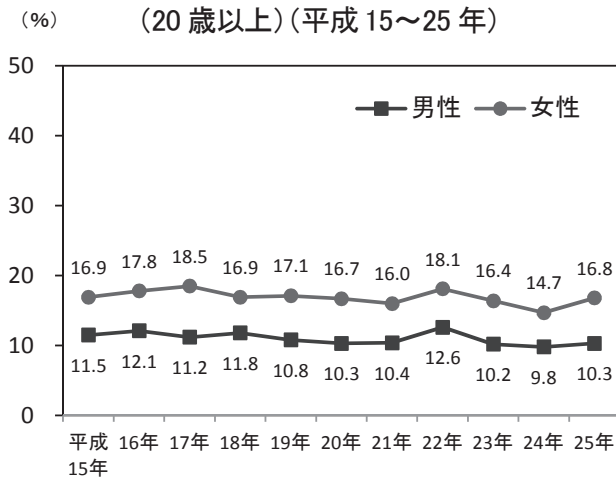
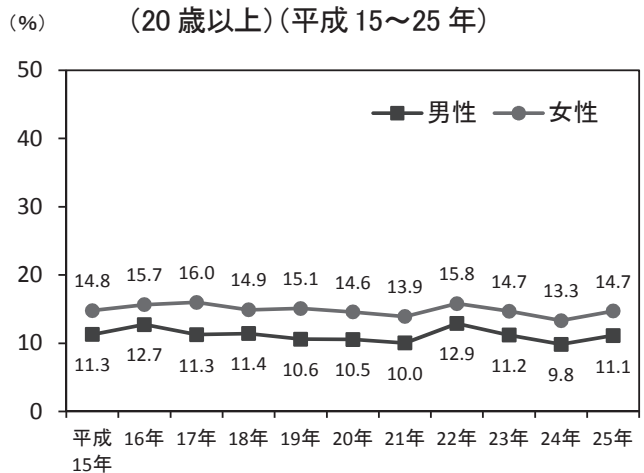


図 25-2 年齢調整した、血清総コレステロールが 240mg/dL 以上の者の割合の年次推移 (20 歳以上) (平成 15~25 年)



※コレステロールを下げる薬または中性脂肪(トリグリセライド)を下げる薬の使用者含む。

(参考)「健康日本21(第2次)」の目標
 脂質異常症の減少
 目標値: 総コレステロール 240mg/dl 以上の者の割合 男性 10%、女性 17%

<年齢調整値の算出に用いた基準人口>
 平成 22 年国勢調査による基準人口

第4部 咀嚼・嚥下に関する状況

1. 咀嚼の状況

かんで食べる時の状態について、「何でもかんで食べることができる」と回答した者の割合は、平成16年と比較して、どの年代においても増加している。

図26 何でもかんで食べることができるという回答した者の割合の年次推移
(40歳以上、男女計、年齢階級別)

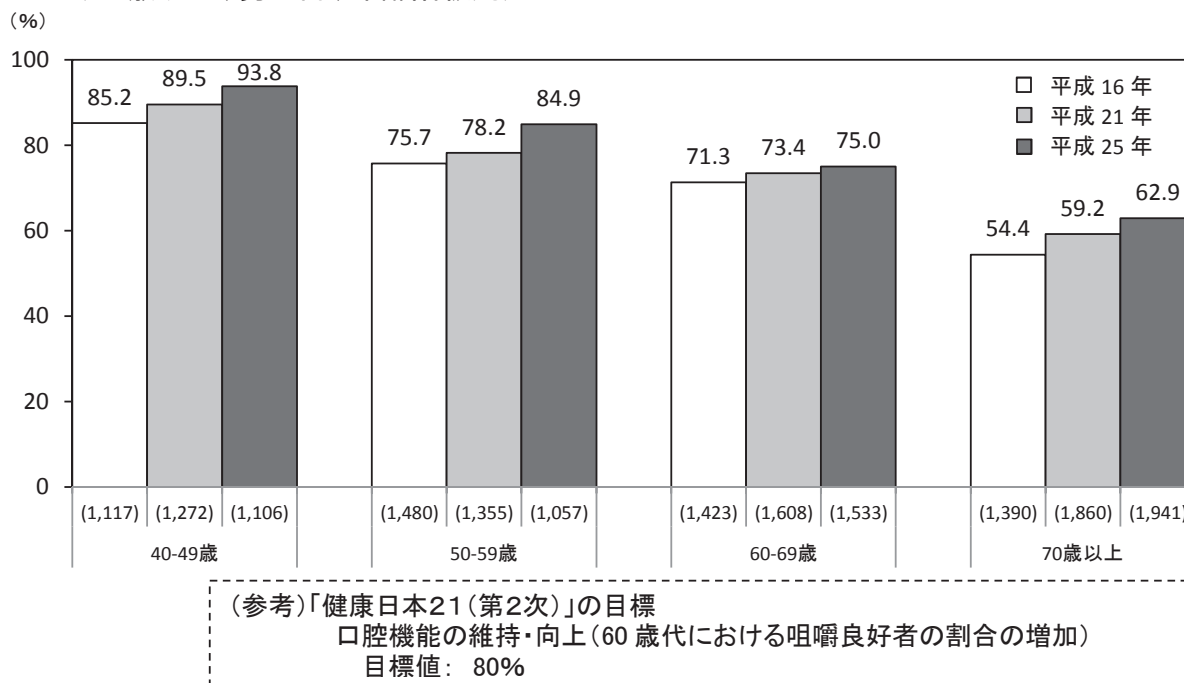


図27 かんで食べる時の状況別、低栄養傾向の者の割合(70歳以上、男女計)

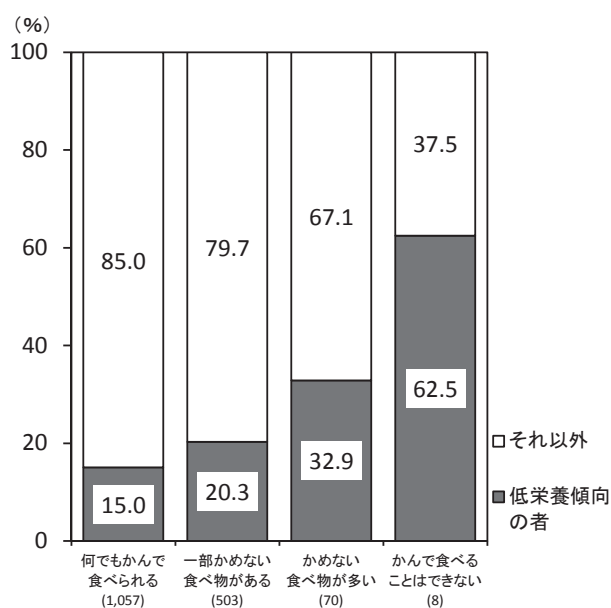
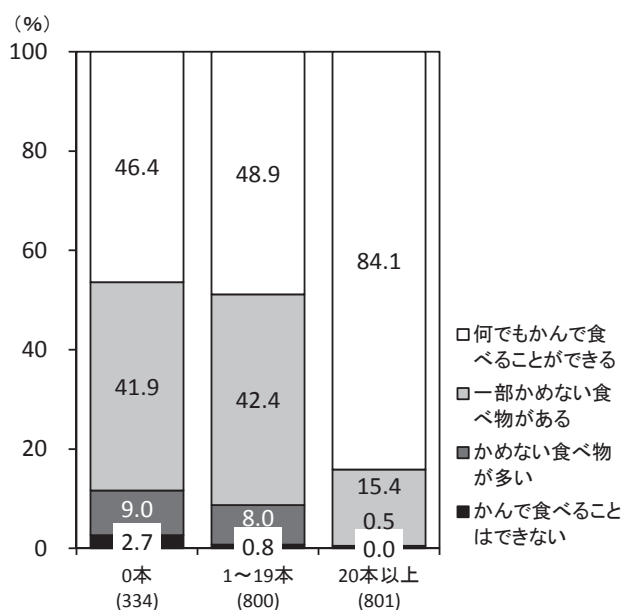


図28 歯の本数別、かんで食べる時の状況の割合(70歳以上、男女計)



2. 嚥下の状況

嚥下の状況について、食べ物や飲み物が飲み込みにくく感じたり、食事中にむせたりすることが頻繁にある、又はときどきあると回答した者の割合は、平成22年に比べて男女とも変わらない。また、その割合は、年齢階級別に見ると60歳代で男女とも13.7%であり、平成22年と比べ減少している。

図 29 嚥下の状況(40歳以上、性・年齢階級別)

問:あなたは食べ物や飲み物が飲み込みにくく感じたり、食事中にむせたりすることがありますか。

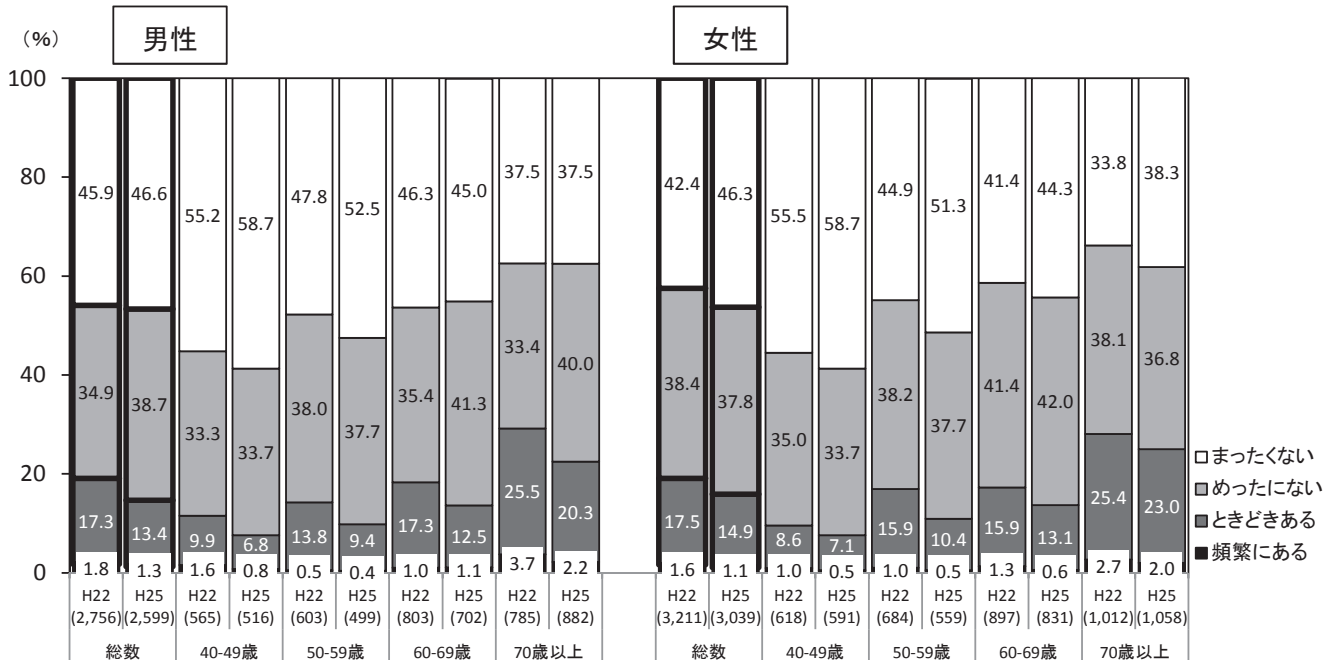


図 30 嚥下の状況別、低栄養傾向の者の割合(70歳以上、男女計)

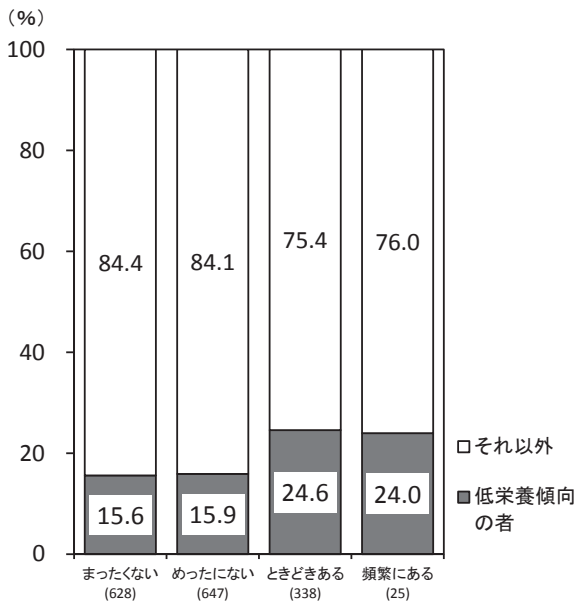
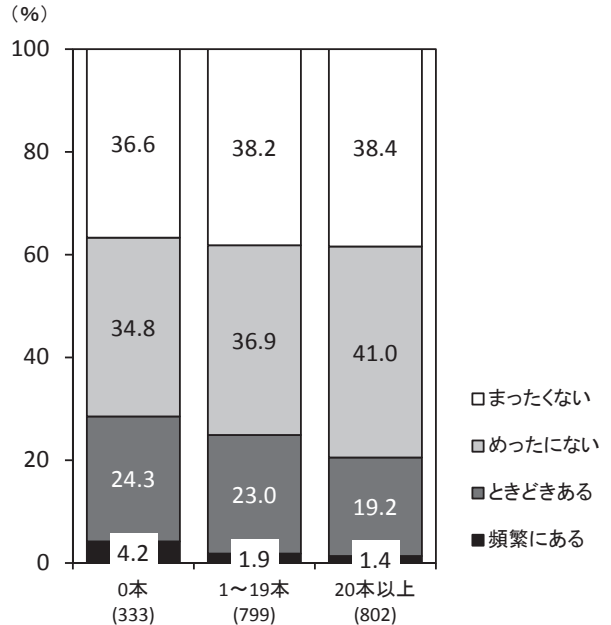


図 31 歯の本数別、嚥下の状況の割合(70歳以上、男女計)



第5部 飲酒・喫煙に関する状況

1. 生活習慣病のリスクを高める飲酒量の知識の状況

生活習慣病のリスクを高める男性の飲酒量(清酒換算で2合以上)を正しく知っている者の割合は、男性 29.3%、女性 24.9%であり、生活習慣病のリスクを高める女性の飲酒量(清酒換算で1合以上)を正しく知っている者の割合は、男性 24.5%、女性 27.4%である。

問:「生活習慣病のリスクを高める飲酒量」とは、男女それぞれ1日平均でどのくらいだと思いますか。清酒に換算*し、あてはまる番号をそれぞれ1つ選んで○印をつけて下さい。

図 32-1 生活習慣病のリスクを高める男性の飲酒量(清酒換算で2合以上)の知識の状況
(20歳以上、性・年齢階級別)

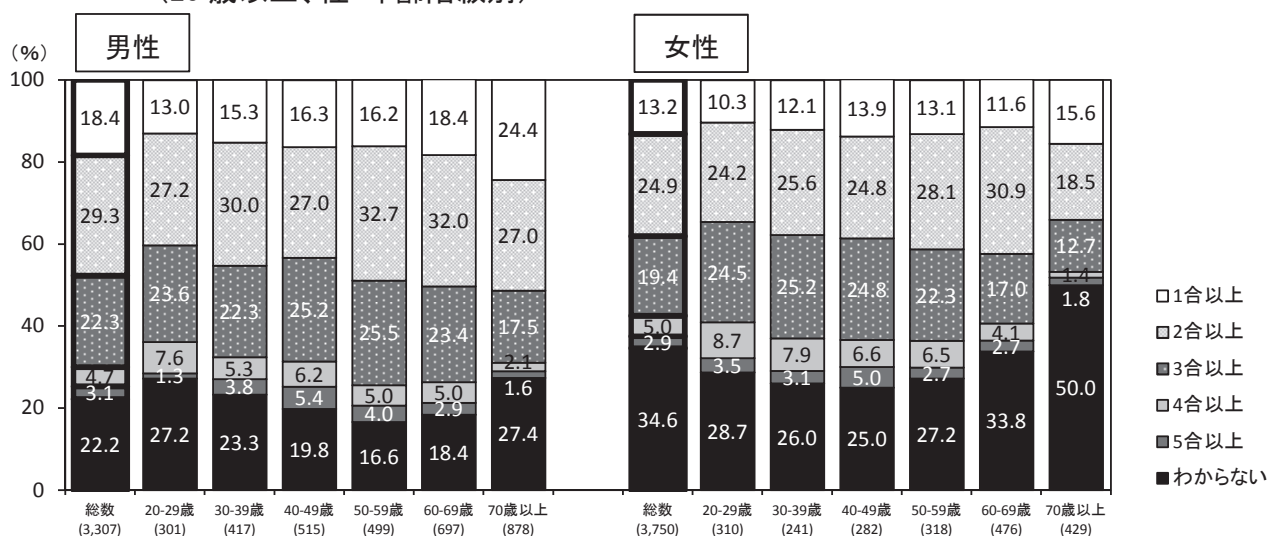
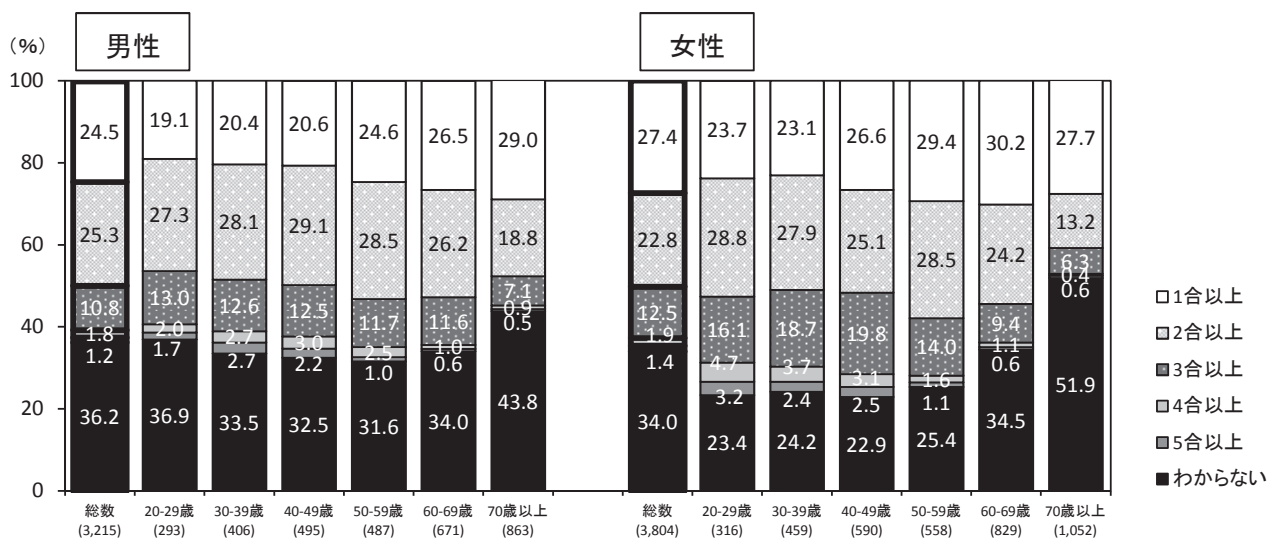


図 32-2 生活習慣病のリスクを高める女性の飲酒量(清酒換算で1合以上)の知識の状況
(20歳以上、性・年齢階級別)

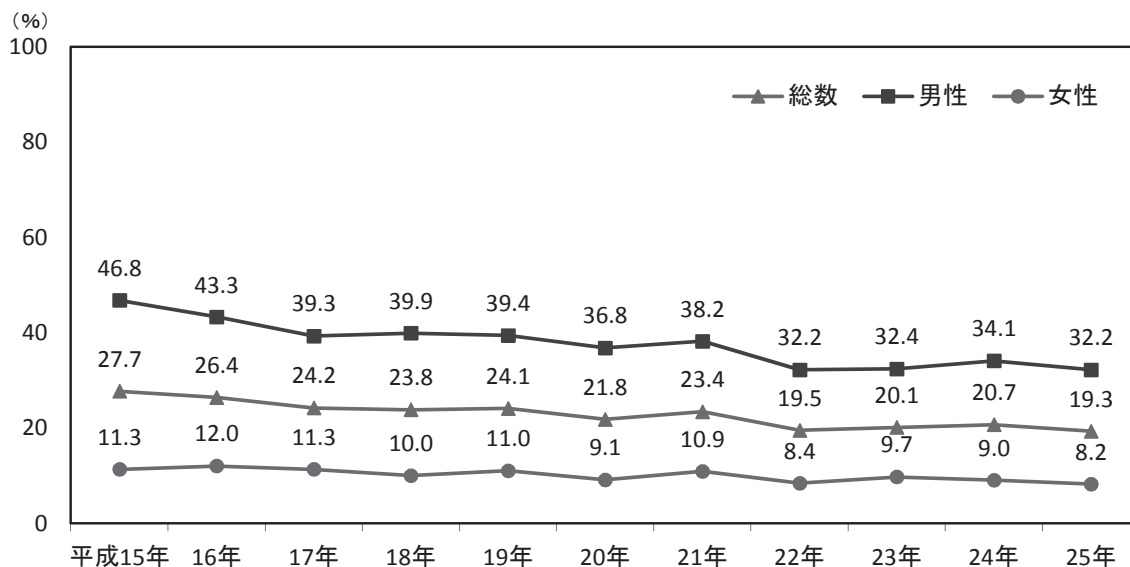


*清酒1合(180ml)は、次の量にほぼ相当する。
ビール・発泡酒中瓶1本(約500ml)、焼酎20度(135ml)、焼酎25度(110ml)、焼酎35度(80ml)、
チューハイ7度(350ml)、ウイスキーダブル1杯(60ml)、ワイン2杯(240ml)

2. 喫煙の状況

現在習慣的に喫煙している者の割合は、19.3%である。性別にみると、男性 32.2%、女性 8.2%であり、男女ともに10年間で減少傾向にある。

図 33 現在習慣的に喫煙している者の割合の年次推移(20歳以上)(平成15~25年)



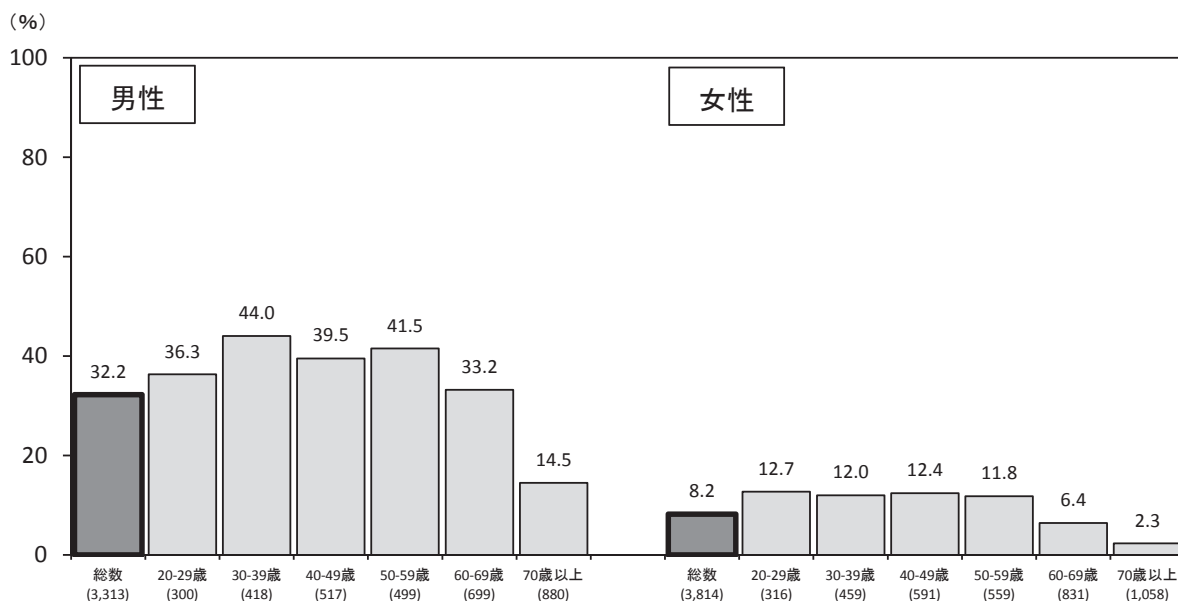
※「現在習慣的に喫煙している者」とは、たばこを「毎日吸っている」又は「時々吸う日がある」と回答した者。

なお、平成24年までは、これまでたばこを習慣的に吸っていたことがある者*のうち、「この1か月間に毎日又はときどきたばこを吸っている」と回答した者。

*平成15~22年は、合計100本以上又は6か月以上たばこを吸っている(吸っていた)者

(参考)「健康日本21(第2次)」の目標
成人の喫煙率の減少(喫煙をやめたい者がやめる)
目標値: 12%

図 34 現在習慣的に喫煙している者の割合(20歳以上、性・年齢階級別)



※「現在習慣的に喫煙している者」とは、たばこを「毎日吸っている」又は「時々吸う日がある」と回答した者。

3. 禁煙意思の有無の状況

現在習慣的に喫煙している者のうち、たばこをやめたいと思う者の割合は、24.6%であり、平成23年と比べて男女とも減少している。たばこの本数を減らしたいと思う者の割合は、33.5%であり、平成23年と比べて増加している。

図 35 現在習慣的に喫煙している者におけるたばこをやめたいと思う者の割合の年次推移(20歳以上)(平成20~25年)

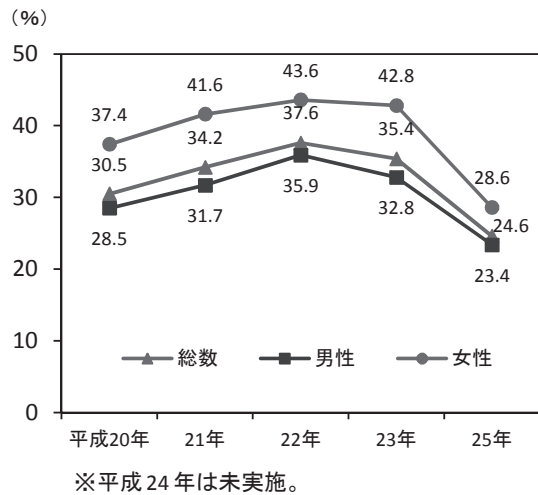


図 36 現在習慣的に喫煙している者におけるたばこの本数を減らしたいと思う者の割合の年次推移(20歳以上)(平成20~25年)

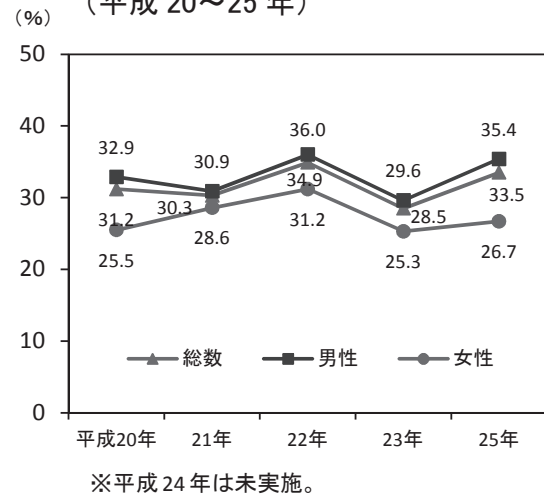
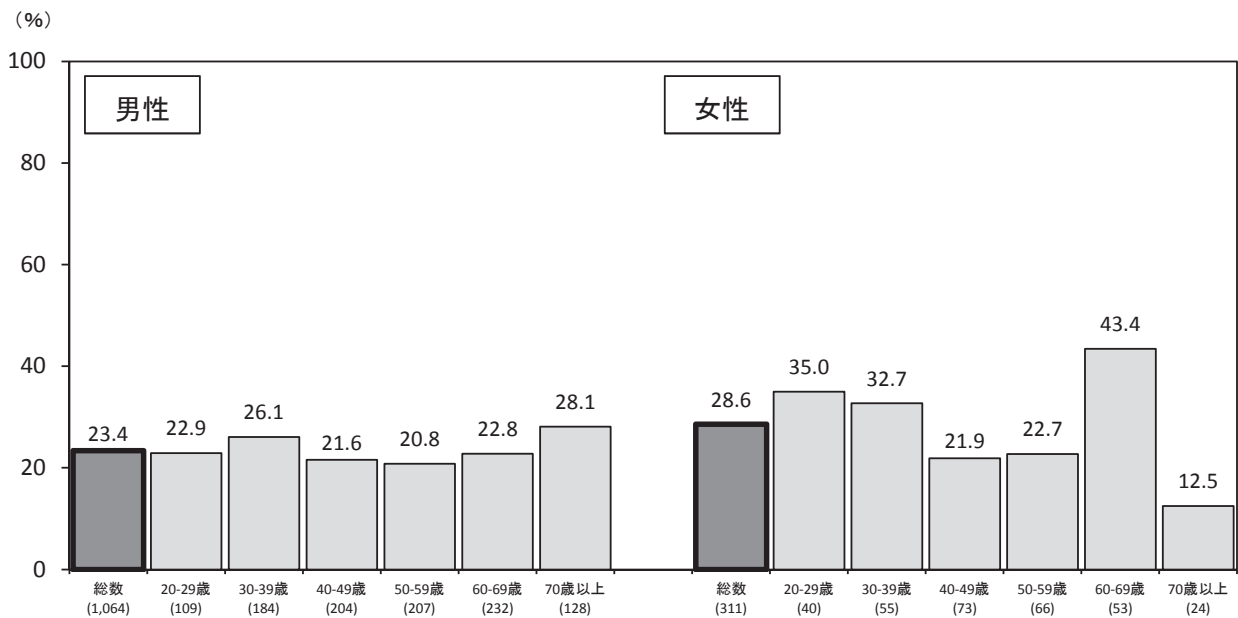


図 37 現在習慣的に喫煙している者におけるたばこをやめたいと思う者の割合(20歳以上、性・年齢階級別)



4. 受動喫煙の状況

過去1か月間に、自分以外の方が吸っていたたばこの煙を吸う機会(受動喫煙)を有する者(現在喫煙者除く)の割合は、平成20年と比べると、「学校」、「遊技場」を除くすべての場所において減少している。しかし、「飲食店」、「遊技場」、「職場」において受動喫煙の割合は3割を超えており、依然として高い状況にある。

図38 自分以外の方が吸っていたたばこの煙を吸う機会(受動喫煙)を有する者の割合(20歳以上、現在喫煙者を除く)

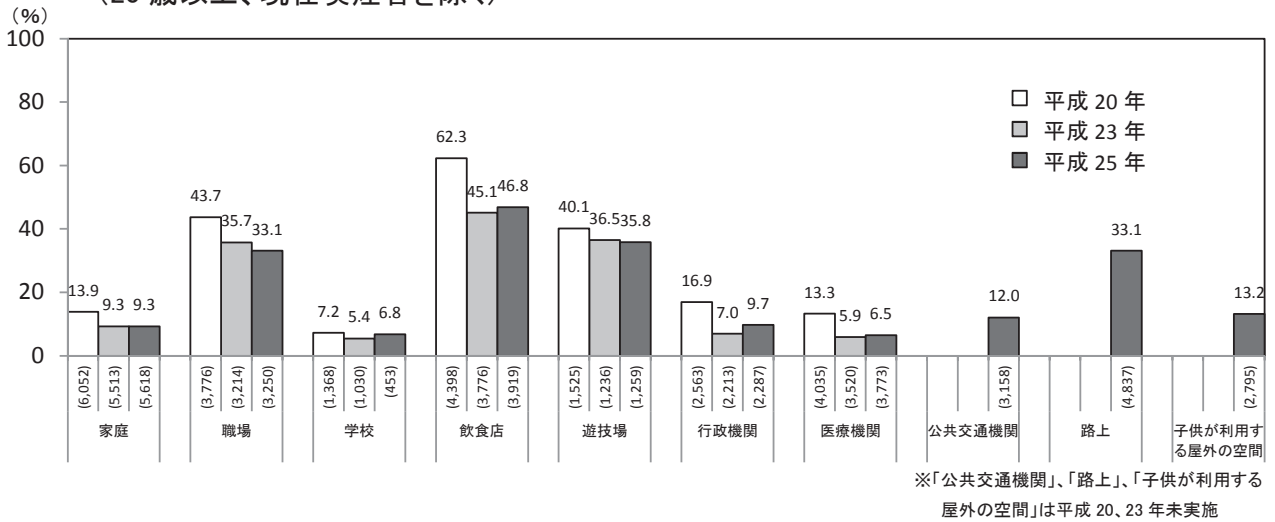


表3 喫煙の状況別、受動喫煙の状況(20歳以上)

		家庭		職場		学校		飲食店		遊技場 (ゲームセンター、パチンコ、競馬場など)		行政機関 (市役所、町村役場、公民館など)		医療機関		公共交通機関		路上		子供が利用する屋外の空間 (公園、通学路など)	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
総数 (現在喫煙者含む)	ほぼ毎日	906	13.1	905	21.3	16	1.2	83	1.7	48	2.8	14	0.5	10	0.2	41	1.1	211	3.6	49	1.5
	週に数回程度	227	3.3	477	11.2	30	2.2	329	6.8	153	9.0	16	0.6	24	0.5	54	1.5	427	7.3	78	2.3
	週に1回程度	144	2.1	211	5.0	24	1.8	628	13.0	239	14.1	39	1.4	39	0.9	83	2.2	495	8.4	106	3.2
	月に1回程度	148	2.1	209	4.9	27	2.0	1,418	29.4	322	18.9	200	7.4	229	5.2	274	7.4	839	14.2	216	6.4
	全くなかった	5,484	79.4	2,451	57.6	1,271	92.9	2,369	49.1	938	55.2	2,424	90.0	4,093	93.1	3,264	87.8	3,917	66.5	2,905	86.6
	総数	6,909	100.0	4,253	100.0	1,368	100.0	4,827	100.0	1,700	100.0	2,693	100.0	4,395	100.0	3,716	100.0	5,889	100.0	3,354	100.0
現在喫煙者のみ	ほぼ毎日	385	29.8	528	52.6	7	3.5	47	5.2	32	7.3	8	2.0	3	0.5	14	2.5	70	6.7	7	1.3
	週に数回程度	63	4.9	144	14.4	6	3.0	135	14.9	62	14.1	4	1.0	5	0.8	10	1.8	94	8.9	13	2.3
	週に1回程度	29	2.2	34	3.4	1	0.5	195	21.5	106	24.0	3	0.7	8	1.3	12	2.2	93	8.8	19	3.4
	月に1回程度	25	1.9	21	2.1	4	2.0	245	27.0	111	25.2	33	8.1	40	6.4	38	6.8	114	10.8	40	7.2
	全くなかった	789	61.1	276	27.5	183	91.0	286	31.5	130	29.5	358	88.2	566	91.0	484	86.7	681	64.7	480	85.9
	総数	1,291	100.0	1,003	100.0	201	100.0	908	100.0	441	100.0	406	100.0	622	100.0	558	100.0	1,052	100.0	559	100.0
現在喫煙者除く	ほぼ毎日	521	9.3	377	11.6	9	0.8	36	0.9	16	1.3	6	0.3	7	0.2	27	0.9	141	2.9	42	1.5
	週に数回程度	164	2.9	333	10.2	24	2.1	194	5.0	91	7.2	12	0.5	19	0.5	44	1.4	333	6.9	65	2.3
	週に1回程度	115	2.0	177	5.4	23	2.0	433	11.0	133	10.6	36	1.6	31	0.8	71	2.2	402	8.3	87	3.1
	月に1回程度	123	2.2	188	5.8	23	2.0	1,173	29.9	211	16.8	167	7.3	189	5.0	236	7.5	725	15.0	176	6.3
	全くなかった	4,695	83.6	2,175	66.9	1,088	93.2	2,083	53.2	808	64.2	2,066	90.3	3,527	93.5	2,780	88.0	3,236	66.9	2,425	86.8
	総数	5,618	100.0	3,250	100.0	1,167	100.0	3,919	100.0	1,259	100.0	2,287	100.0	3,773	100.0	3,158	100.0	4,837	100.0	2,795	100.0

注)「行かなかった」を除く。

※現在喫煙者：現在習慣的に喫煙している者。

※「受動喫煙の機会を有する者」とは、家庭：毎日受動喫煙の機会を有する者、その他：月1回以上受動喫煙の機会を有する者。

(参考)「健康日本21(第2次)」の目標
 受動喫煙(家庭・職場・飲食店・行政機関・医療機関)の機会を有する者の割合の減少
 目標値：「家庭」3%、「職場」受動喫煙の無い職場の実現
 「飲食店」15%、「行政機関」・「医療機関」0%

5. 受動喫煙防止対策の推進を望む場所

受動喫煙防止対策を望む場所として、非喫煙者では「路上」、「飲食店」に次いで「子供が利用する屋外の空間(公園、通学路など)」と回答した者の割合が高く、それぞれ 42.7%、42.1%、36.9%である。喫煙者では「特にない」と回答した者の割合が最も高く、51.5%である。

図 39 受動喫煙防止対策の推進を望む場所(20歳以上、喫煙の状況別)

問:あなたが、受動喫煙の防止対策が今よりも推進されることを望む場所はありますか。あてはまる番号をすべて選んで○印をつけて下さい。

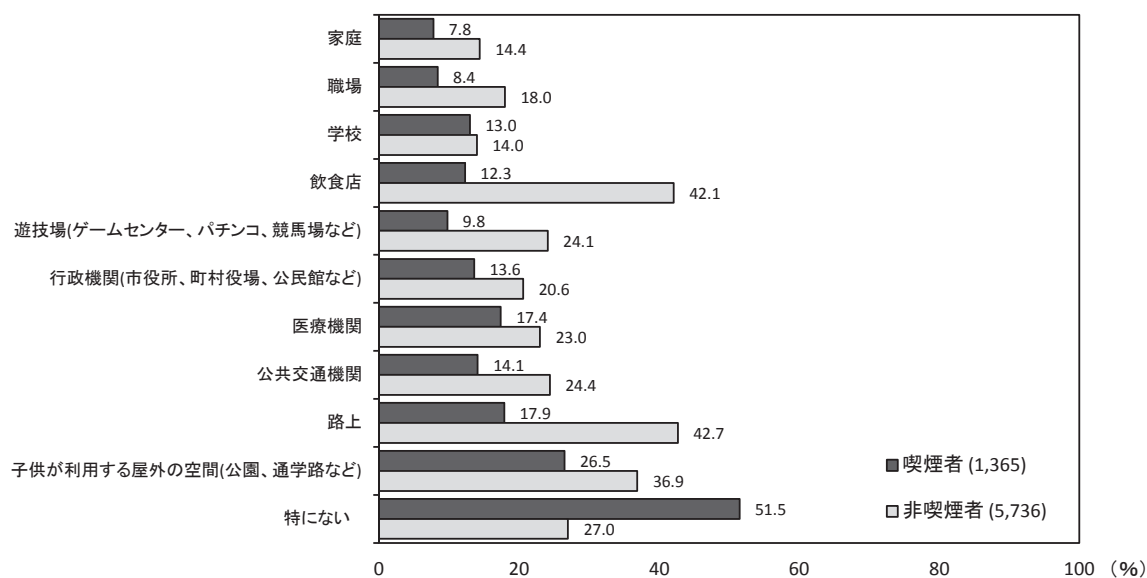


表 4 受動喫煙防止対策の推進を望む場所(20歳以上、男女計、年齢階級別)

		総数		20-29歳		30-39歳		40-49歳		50-59歳		60-69歳		70歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
喫煙者	家庭	106	7.8	2	1.4	15	6.3	11	4	17	6.3	39	13.8	22	14.5
	職場	114	8.4	7	4.7	19	8	23	8.4	22	8.1	27	9.6	16	10.5
	学校	178	13	10	6.8	30	12.7	39	14.2	40	14.7	41	14.5	18	11.8
	飲食店	168	12.3	11	7.4	37	15.6	25	9.1	31	11.4	37	13.1	27	17.8
	遊技場(ゲームセンター、パチンコ、競馬場など)	134	9.8	16	10.8	27	11.4	22	8	24	8.8	31	11	14	9.2
	行政機関(市役所、町村役場、公民館など)	185	13.6	14	9.5	29	12.2	25	9.1	46	16.9	51	18.1	20	13.2
	医療機関	238	17.4	19	12.8	39	16.5	39	14.2	52	19.1	60	21.3	29	19.1
	公共交通機関	192	14.1	13	8.8	38	16	20	7.3	42	15.4	55	19.5	24	15.8
	路上	244	17.9	26	17.6	36	15.2	48	17.5	49	18	64	22.7	21	13.8
	子供が利用する屋外の空間(公園、通学路など)	362	26.5	45	30.4	80	33.8	62	22.6	74	27.2	71	25.2	30	19.7
	特にない	703	51.5	81	54.7	118	49.8	146	53.3	139	51.1	131	46.5	88	57.9
総数	1,365	-	148	-	237	-	274	-	272	-	282	-	152	-	
非喫煙者	家庭	826	14.4	64	13.7	83	13	98	11.9	132	16.8	198	15.9	251	14.1
	職場	1032	18	92	19.7	133	20.9	196	23.8	179	22.8	228	18.3	204	11.5
	学校	802	14	76	16.3	100	15.7	139	16.8	130	16.6	169	13.6	188	10.6
	飲食店	2414	42.1	200	42.9	310	48.7	400	48.5	391	49.9	551	44.3	562	31.6
	遊技場(ゲームセンター、パチンコ、競馬場など)	1383	24.1	122	26.2	196	30.8	243	29.5	215	27.4	318	25.6	289	16.2
	行政機関(市役所、町村役場、公民館など)	1181	20.6	94	20.2	143	22.4	181	21.9	187	23.9	264	21.2	312	17.5
	医療機関	1317	23	123	26.4	156	24.5	197	23.9	205	26.1	289	23.3	347	19.5
	公共交通機関	1399	24.4	126	27	176	27.6	225	27.3	221	28.2	315	25.3	336	18.9
	路上	2448	42.7	222	47.6	331	52	413	50.1	359	45.8	529	42.6	594	33.4
	子供が利用する屋外の空間(公園、通学路など)	2115	36.9	194	41.6	307	48.2	361	43.8	301	38.4	465	37.4	487	27.3
	特にない	1548	27	94	20.2	118	18.5	148	17.9	166	21.2	312	25.1	710	39.9
総数	5,736	-	466	-	637	-	825	-	784	-	1243	-	1781	-	

※網掛けは、年齢階級別で最も割合が多い項目である。